

市民意見交換会（ラウンドテーブル）

～第6次松山市総合計画の策定に向けて～

テーマ1：少子化対策

テーマ2：雇用の促進

テーマ3：災害に強いまちづくり

《報告書》

平成24年1月

松山市

【目次】

市民意見交換会（ラウンドテーブル）とは 1

テーマ1：少子化対策 2

1. 開催概要
2. 松山の問題と「松山を変えるアイデア（提案）」

| 松山のここが問題！ | 松山を変えるアイデア！ | 頁 |
|----------------------|---------------------|----|
| (1) 子どもを産むまでの課題・不安 | | |
| ①非婚・未婚・晩婚が増加している | 提案1 「親子の日」の制定 | 7 |
| | 提案2 同窓会の開催支援 | 8 |
| ②出産に不安を感じるカップルがいる | 提案3 妊婦への情報提供の仕組みづくり | 11 |
| | 提案4 「父親教室」の開催 | 12 |
| (2) 子育ての課題・不安 | | |
| ①地域で孤立している親子がいる | 提案5 「子育てサロン」の設置 | 15 |
| | 提案6 「ワンストップ相談窓口」の設置 | 16 |
| | 提案7 「子育てガイドブック」の作成 | 17 |
| ②子育て支援活動が十分に利用されていない | 提案8 「子育て情報の提供拠点」の設置 | 21 |
| | 提案9 「子育てサークル活動」の活性化 | 22 |

参考資料（第1回意見交換会のまとめ、参加者名簿）

テーマ2：雇用の促進 32

1. 開催概要
2. 松山の問題と「松山を変えるアイデア（提案）」

| 松山のここが問題！ | 松山を変えるアイデア！ | 頁 |
|-----------------------|--------------------------|----|
| (1) 雇用の受け皿が増えない | | |
| ①既存企業の成長が弱い | 提案1 既存企業のレベルアップ(坂の上の雲) | 37 |
| | 提案2 市内ビジネスネットワークの充実 | 38 |
| | 提案3 補助金・支援制度の活用促進 | 39 |
| | 提案4 ものづくりのブランド化と国際展開支援 | 40 |
| | 提案5 松山農業の6次産業化の促進 | 41 |
| ②企業誘致による雇用が少ない | 提案6 企業誘致の強化と定着促進 | 42 |
| ③起業が少ない | 提案7 起業の促進 | 43 |
| (2) 成長に必要な人材が確保できない | | |
| ①既存社員に必要な能力が不足 | 提案8 社員の能力開発の支援 | 47 |
| ②若い人材を確保できない | 提案9 若い人材の地元就職の促進 | 48 |
| ③安定した職に就けない就業者・離職者がいる | 提案10 求職者の職業能力の向上支援 | 49 |
| ④多様な人材の活用が不十分 | 提案11 多様な人材の採用の支援 | 50 |
| ⑤経営層の人材マネジメントに課題 | 提案12 経営層の人材マネジメント力の向上の支援 | 51 |

参考資料（第1回意見交換会のまとめ、参加者名簿）

1. 開催概要
2. 松山の問題と「松山を変えるアイデア（提案）」

| 松山のここが問題！ | 松山を変えるアイデア！ | 頁 |
|---------------------|--------------------------|----|
| (1) 大規模地震への備えに不安 | | |
| ①各家庭の災害への備えが弱い | 提案1 防災マップを活用した防災知識・情報の普及 | 67 |
| ②家具固定の実施率が低い | 提案2 家具固定の促進 | 68 |
| ③避難訓練の参加者が少ない | 提案3 避難訓練の実施 | 69 |
| (2) 大規模地震の発生時の対応に不安 | | |
| ①自分や家族の身を守れるか不安 | 提案4 初動/ウハウの普及 | 73 |
| ②学校や職場等の初動が不安 | 提案5 学校や職場等での初動体制の確保 | 74 |
| ③外出時に避難先が分からず不安 | 提案6 外出場所での避難場所の表示 | 77 |
| ④家族の安否が確認できるか不安 | 提案7 災害用伝言ダイヤルの番号の周知 | 77 |
| ⑤避難所が適切に運営されるか不安 | 提案8 避難所の開設訓練 | 78 |

参考資料（第1回意見交換会のまとめ、参加者名簿）

市民意見交換会（ラウンドテーブル）とは

■開催の目的

- ・ 第6次松山市総合計画の策定に向けて、公募市民、NPO・企業・各種団体関係者等が一堂に会して、本市における重要なテーマについて、課題や目標、目標達成に向けた取組アイデア等を自由闊達に語り合う「市民意見交換会（ラウンドテーブル）」を開催しました。
- ・ 検討成果やいただいたご意見については、新たな総合計画の策定に活用します。

■検討テーマと参加者

- ・ 市民意見交換会は、今後の本市のまちづくりに重要と考える下記の3つのテーマについて開催しました。

| テーマ | 内 容 |
|---------------|-----------------------------|
| 1. 少子化対策 | 子育て世代への支援、環境づくりなどについて |
| 2. 雇用の促進 | 雇用確保に向けた取り組み・人材確保及び育成などについて |
| 3. 災害に強いまちづくり | 大規模地震対策などについて |

- ・ 市民意見交換会の参加者は、テーマごとに、公募市民、NPO・企業・各種団体関係者等の約20名で構成されます。

市民意見交換会（ラウンドテーブル）

テーマ 1：少子化対策

1. 開催概要

■検討テーマ

・「テーマ1：少子化対策」では、子育て世代への支援、環境づくりなどについて検討しました。

■取り上げた課題と提案

・3回の意見交換会を通じて、様々な問題提起がありました。その中で、次の問題に対する取組アイデアについて意見を出し合い、9つの提案をまとめました。

| 松山のここが問題！ | 松山を変えるアイデア！ | 頁 |
|----------------------|---------------------|----|
| (1) 子どもを産むまでの課題・不安 | | |
| ①非婚・未婚・晩婚が増加している | 提案1 「親子の日」の制定 | 7 |
| | 提案2 同窓会の開催支援 | 8 |
| ②出産に不安を感じるカップルがいる | 提案3 妊婦への情報提供の仕組みづくり | 11 |
| | 提案4 「父親教室」の開催 | 12 |
| (2) 子育ての課題・不安 | | |
| ①地域で孤立している親子がいる | 提案5 「子育てサロン」の設置 | 15 |
| | 提案6 「ワンストップ相談窓口」の設置 | 16 |
| | 提案7 「子育てガイドブック」の作成 | 17 |
| ②子育て支援活動が十分に利用されていない | 提案8 「子育て情報の提供拠点」の設置 | 21 |
| | 提案9 「子育てサークル活動」の活性化 | 22 |

■開催概要

第1回「松山のここが問題！」

趣旨説明、参加者紹介、テーマと進め方の説明の後、子育て支援課と門田真知江さん（松山市民生児童委員協議会）からオープニングトークをしていただきました。

その後、「子どもを産み・育てやすいように、ここを何とかしたい！」をテーマに、次の3つのテーブルを巡り、存分に語っていただきました。

- A：子育ての相談環境
- B：地域における子育て支援
- C：少子化の原因



(日時：11月9日(水)19:00~21:00、場所：松山センタービル1号館 4階第1会議室)

第2回「松山をこんなまちにしたい！」

第1回のふりかえりの後、次の2つの検討グループに分かれて、「子どもを産み・育てやすいように、こんなまちにしたい！」をテーマに、まちづくりの方向性（将来、松山がこうなったらいいな）や取組アイデアを話し合いました。

- 1班：出会い～出産
- 2班：子育て



(日時：11月16日(水)19:00~21:00、場所：シュロス日銀前 4階第1会議室)

第3回「松山を変えるアイデア！」

第2回のふりかえりの後、第2回と同じ検討グループに分かれて、「松山を、もっと子育てしやすいまちに変えるアイデア！」「ここから松山を変えよう！」をテーマに取組アイデアを話し合いました。

意見交換会の閉会にあたって、参加者の皆さんから感想・今後の抱負などを一言ずつお話しいただきました。

- 1班：出会い～出産
- 2班：子育て



(日時：11月29日(火)19:00~21:00、場所：シュロス日銀前 4階第1会議室)

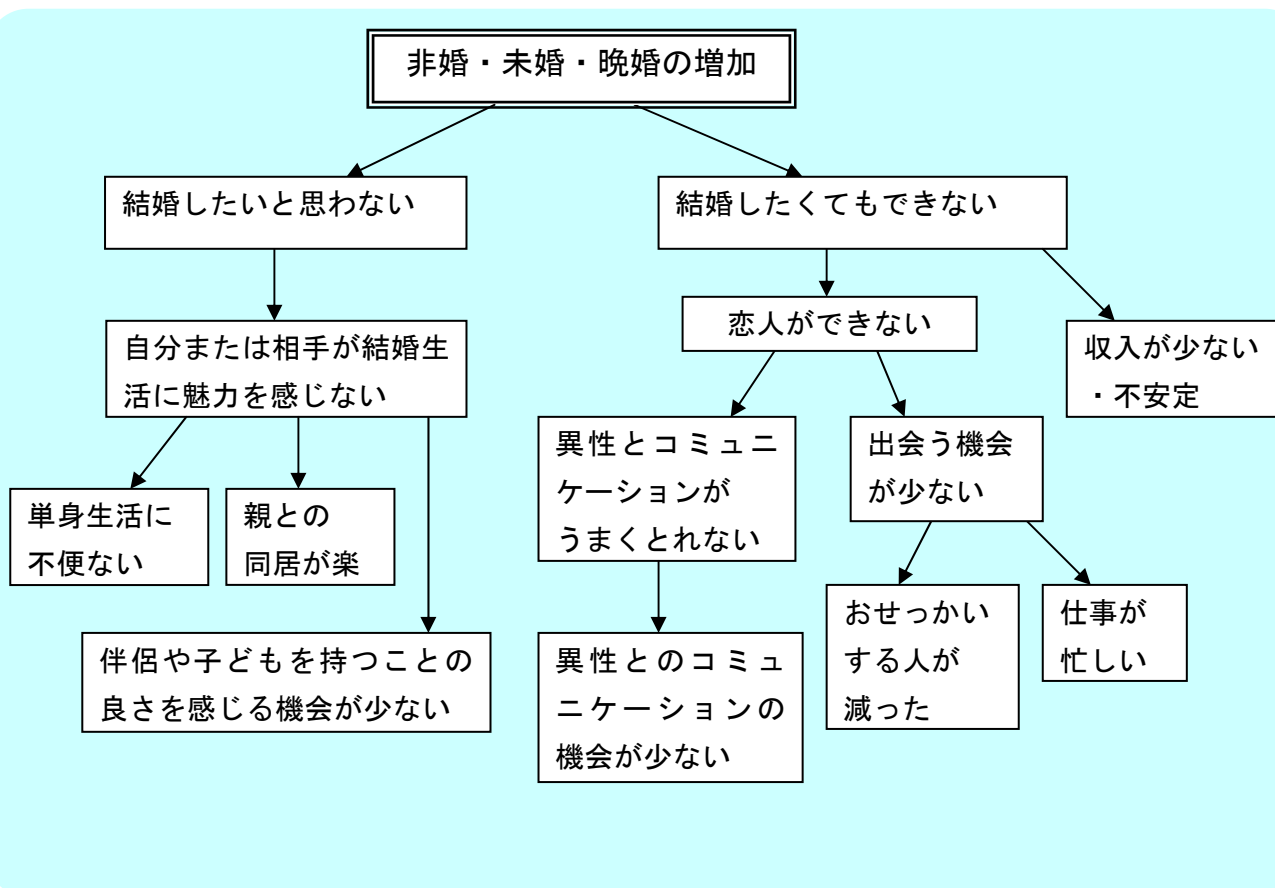
2. 松山の問題と「松山を変えるアイデア（提案）」

(1) 子どもを産むまでの課題・不安

①非婚・未婚・晩婚が増加している

【松山のここが問題！】

- ・ 「少子化」の原因の一つとして、「非婚・未婚・晩婚の増加」があげられます。
- ・ その要因として、「親との同居や単身生活の気楽さ」などから、結婚生活に魅力を感じない人がいるものと考えられます。
- ・ また、「異性と上手くコミュニケーションがとれない」「異性と出会う機会が少ない」ことなどから恋人ができず、結婚したくてもできない人がいる」ことも要因として考えられます。



【将来の松山こうなったらいいな！】

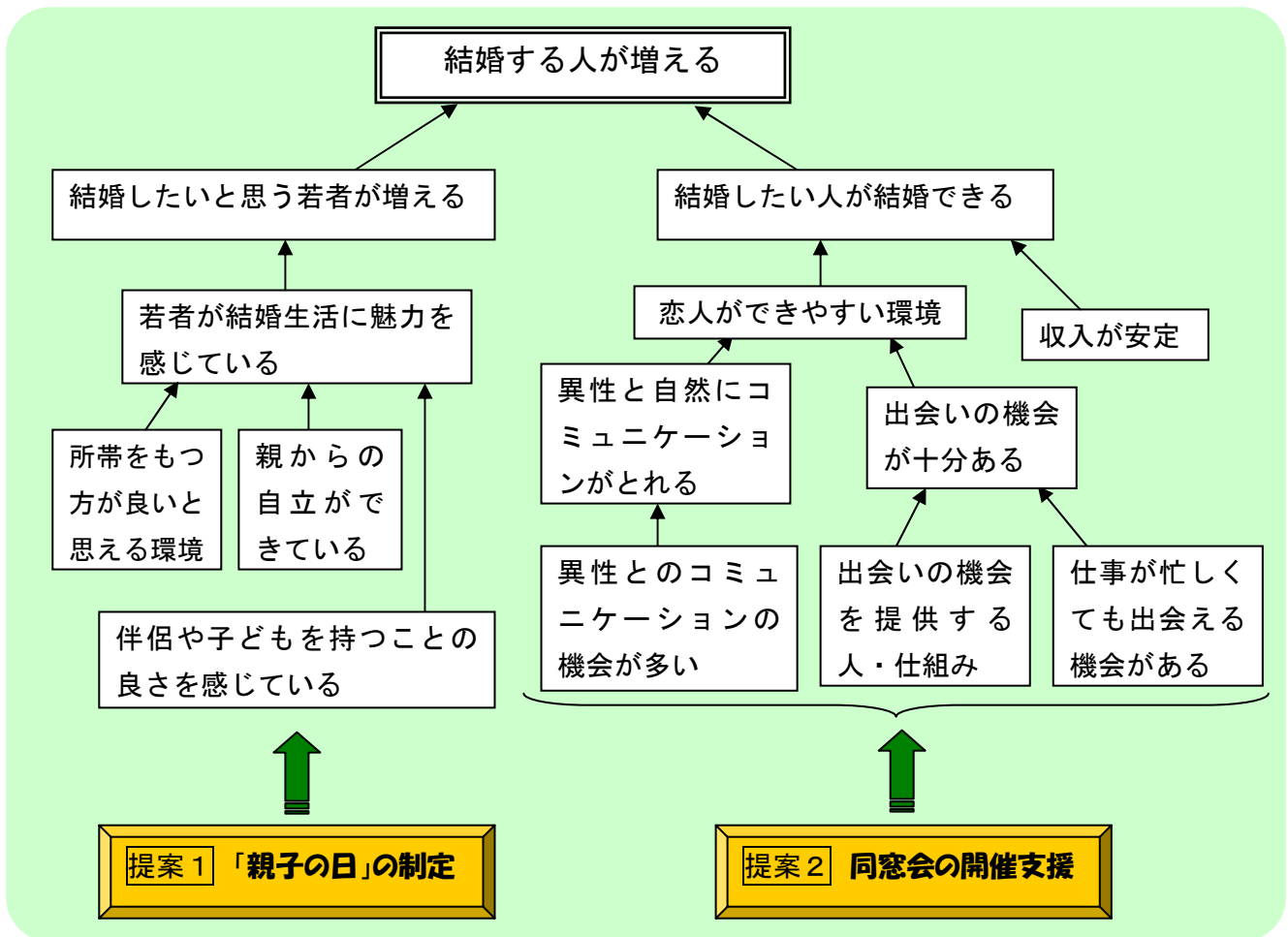
・結婚する若者を増やすため、次の2つの取組アイデアをまとめました。

提案1 「親子の日」の制定

親子や家族の笑顔で、「家族を持ちたい」という気持ちを刺激します。

提案2 「同窓会の開催支援」

誰もが参加しやすい同窓会を開くことで、出会いのチャンスを増やします。



提案1 「親子の日」の制定

| | |
|----------------------|--|
| <p>目的</p> | <p>結婚し、子どもをもうけることの良さを若い世代に実感してもらうため、「親子の日」を制定する。</p> <p>子どもの日、母の日、父の日、敬老の日、いい夫婦の日、などはあるが、「親子」にスポットを当てた記念日がない。「親子の日」を制定することで、親と子の絆、家族のつながりの良さを再確認し、結婚して家族・家庭を築くことのすばらしさを感じてもらう。</p> |
| <p>概要</p> | <p>[開催概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内各所で「親子」に関する講座・イベント等を実施する。 ・ 公園、映画館、ボウリング場等市内の様々な場所で展開する。 <p>[開催内容（例）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の写真コンテストの開催 ・ 家族の良さを実感できる、古今東西の映画上映 ・ 三世代家族でチームを組むような、年齢混合ボウリング大会の開催 ・ 公共施設や飲食店等で、家族で来ると特別な特典を付与 ・ 素敵な家族を築いている芸能人・スポーツ選手等を招いたトークショーの開催 ・ 多世代交流スポーツ大会の開催 ・ 子育てについての講座（保健師・看護師・助産師等による講座、先輩パパ・ママによる体験談など） |
| <p>役割分担 ・ 体制</p> | |

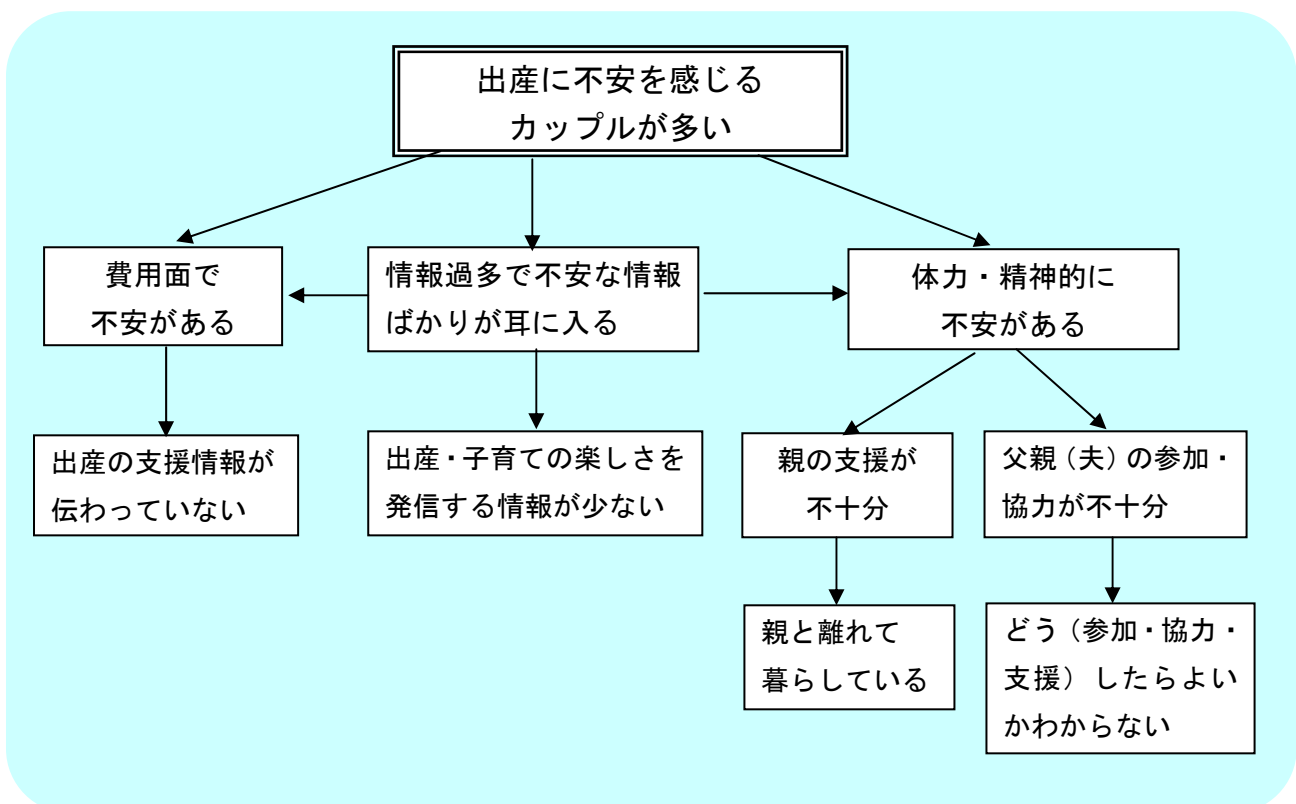
提案2 同窓会の開催支援

| | |
|---------------------|---|
| <p>目的</p> | <p>結婚しない若者の増加の一因として、出会いの場の不足があると考えられる。同窓会は男女の自然な出会いの場として有効に機能する可能性があることから、松山市内の学校の同窓会の開催を支援することで、カップルの誕生を応援する。</p> |
| <p>概要</p> | <p>[支援概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> 松山市内の学校の同窓会の開催を支援する。 (支援内容例) 同窓会の幹事の代行 各学校のOBが経営する飲食店の紹介 <p>[特典・おまけ・仕掛け等]</p> <ul style="list-style-type: none"> 20～30歳代であれば、入学・卒業年次に関係なく、同窓会に参加できるようにする。 各地の愛媛県人会等と連携し、就職等で松山を離れている人にも参加を呼びかける。 松山を離れている人については、同窓会による帰郷→出会い→結婚をきっかけに、Uターンを意識してもらえる可能性もある。同窓会では行政や地元経済界からUターン就職等の情報提供も行う。 「少子化対策のため」と押し出すと結婚を強いているようで参加者が身構えてしまう恐れがあるので、「少子化対策」とは銘打たない。 男子校・女子校については相手校を設定して合同で行う。 |
| <p>役割分担 ・体制</p> | <pre> graph TD County[県人会等] -- 開催案内 --> Alumni[学校OB (20～30代)] Admin[行政(幹事代行)] -- 開催案内 Uターン就職情報 --> Alumni Admin -- 協力要請 --> County Admin -- 会場手配 --> Store[店舗] Store -- 優遇 --> Reunion["「同窓会」の開催 出会い"] Alumni -- 出席 --> Reunion School[学校] -- 開催案内 --> Reunion School -- 教員参加 学校案内 --> Reunion </pre> |

②出産に不安を感じるカップルがいる

【松山のここが問題！】

- ・「少子化」の原因の一つとして、「出産に不安を感じるカップルが多いこと」があげられます。
- ・その要因として、「費用面で不安がある」「情報過多で不安な情報ばかりが耳に入る」ことなどが考えられます。
- ・また、親の支援が十分に受けられなかったり、「父親（夫）の参加・協力が不十分」なことなどから、「体力・精神的に不安があること」も要因として考えられます。



【将来の松山こうなったらいいな！】

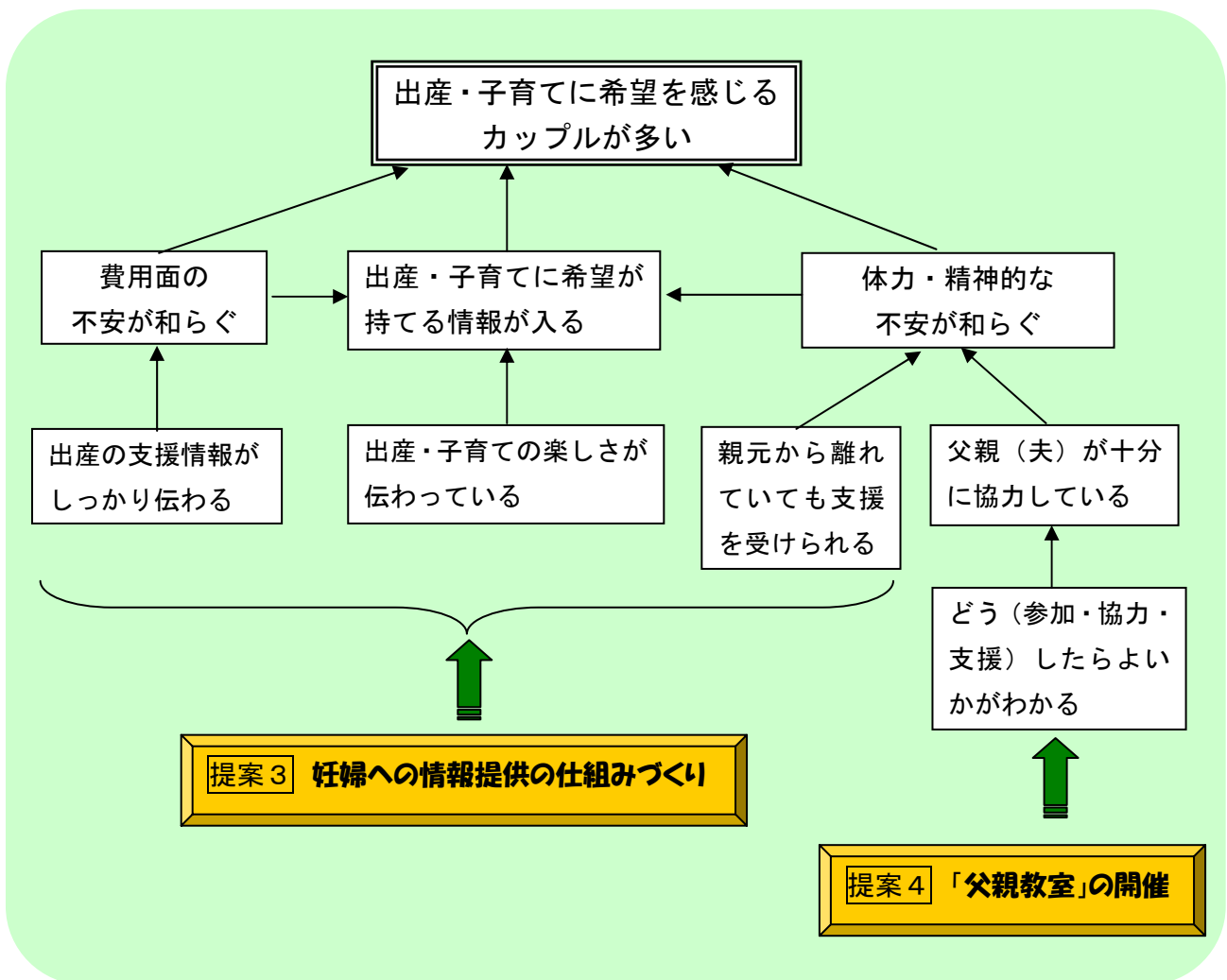
・出産についてのカップルの不安を軽減するため、次の2つの取組アイデアをまとめました。

提案3 妊婦への情報提供の仕組みづくり

妊娠・出産に関する様々な支援情報を提供して、カップルの不安を軽減します。

提案4 「父親教室」の開催

育児の方法を父親（夫）にも学んでいただき、夫婦での子育てを支援します。



提案3 妊婦への情報提供の仕組みづくり

| | |
|----------------------|---|
| <p>目的</p> | <p>妊娠・出産を支援するため、行政や産婦人科等の様々な主体が様々な取組を行っているが、その活動はあまり知られていない。出産して初めて気がつく母親も多い。</p> <p>そこで、妊娠時における妊婦の不安が軽減されるように、情報提供の仕組みをつくる。</p> |
| <p>概要</p> | <p>①正確な情報を広く届ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 婚姻届提出時に、子育てに関する情報提供を行う。(妊娠・不妊治療の支援、住宅支援等) ・ 市内の産婦人科に、妊娠・出産に関する行政の支援情報のチラシをおいておく。 ・ 妊娠・出産にかかわるインターネット上の地域の口コミサイトを市役所がチェックし、投稿者の疑問や誤解に対して、正しい情報をコメントする。 <p>②妊婦を孤立させない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産婦人科などにおける母親学級を充実する。 ・ マタニティー期に妊婦どうしの交流を図る。(将来のママ友づくり) |
| <p>役割分担 ・ 体制</p> | <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>妊婦に様々な支援情報が届く → 不安の軽減へ</p> </div> |

提案4 「父親教室」の開催

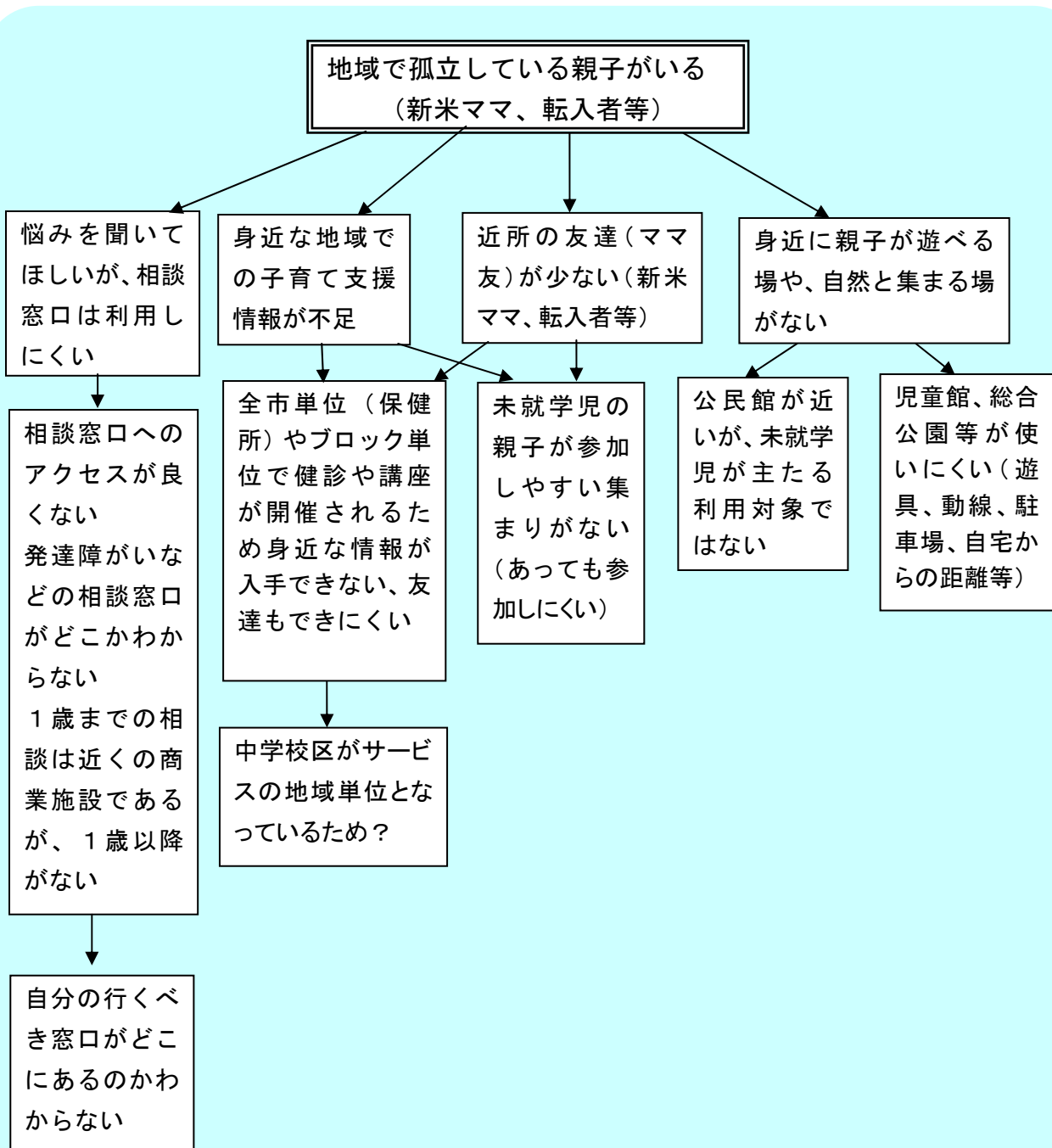
| | |
|----------------------|---|
| <p>目的</p> | <p>父親が抵抗感なく、出産・育児に参加し、母親を支えられるように、出産前からのシリーズ化された父親教室を開催する。</p> <p>この教室を開催することにより、妊娠期のパートナー（母親）の体調や心の変化、出産・育児について認識を深めるとともに、父親どうしのつながり作りを進め、出産後を見据えた地域における子育ての支え合いやコミュニティ作りにもつなげていく。</p> |
| <p>概要</p> | <p>[開催時期・場所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 土日や平日の夜間など、男性が参加しやすい多様な時間帯に開催する。 ・ 市中心部の保健センターだけでなく、公民館等身近な地域で開催する。 ・ 1回限りの開催ではなく、複数回の連続講座として開催する。 <p>[講座内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 母体の体の変化・精神的変化についての理解と適切なフォローの仕方 ・ 料理、洗濯、おむつ換え、離乳食づくり、ママがいない時のお留守番講座 ・ 病気・怪我の時の応急手当講座 ・ パパならではの「子どもとの遊び方教室」 ・ 悩みや不安、楽しみ・期待などを共有するグループディスカッション ・ 先輩子育て世代からの体験談や交流 ・ 市の子育て支援施策や必要な手続き等の説明 <p>[特典・おまけ・仕掛け等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 複数回の参加を促すために、ポイントカードを設け、一定数たまったら、おむつやおもちゃ等の景品を渡す。（企業とタイアップ） ・ 父親のみでも、夫婦そろってでも参加可とする。 ・ 母子手帳支給時に、簡易版「父子手帳」を付録として付け、父親教室の案内も綴じ込む。 |
| <p>役割分担 ・ 体制</p> | <pre> graph TD A[父親(出産前含む)] -- 参加 --> B[父親教室の開催(出産前からの連続講座)] C[行政] -- "講師派遣 (支援施策、 手続き等を説明)" --> B C -- "母子手帳支給時に「父子手帳」 も支給 (父親教室の案内を綴じ込む)" --> B D[医療機関等] -- "講師派遣 (看護師、 保健師、 助産師等)" --> B E[企業] -- "景品提供 (参加特典)" --> B C -- 協力依頼 --> E </pre> |

(2) 子育ての課題・不安

①地域で孤立している親子がいる

【松山のここが問題！】

- ・子育ての課題・不安として、「地域で孤立する親子がいること」があげられます。
- ・その要因として、「相談窓口が利用しにくい」「身近な地域での子育て支援情報が不足」「近所に友達が少ない」「身近に親子が遊べる場や、自然と集まる場がない」などが考えられます。



【将来の松山こうなったらいいな！】

・地域での親子の孤立を解消するため、次の3つの取組アイデアをまとめました。

提案5 「子育てサロン」の設置

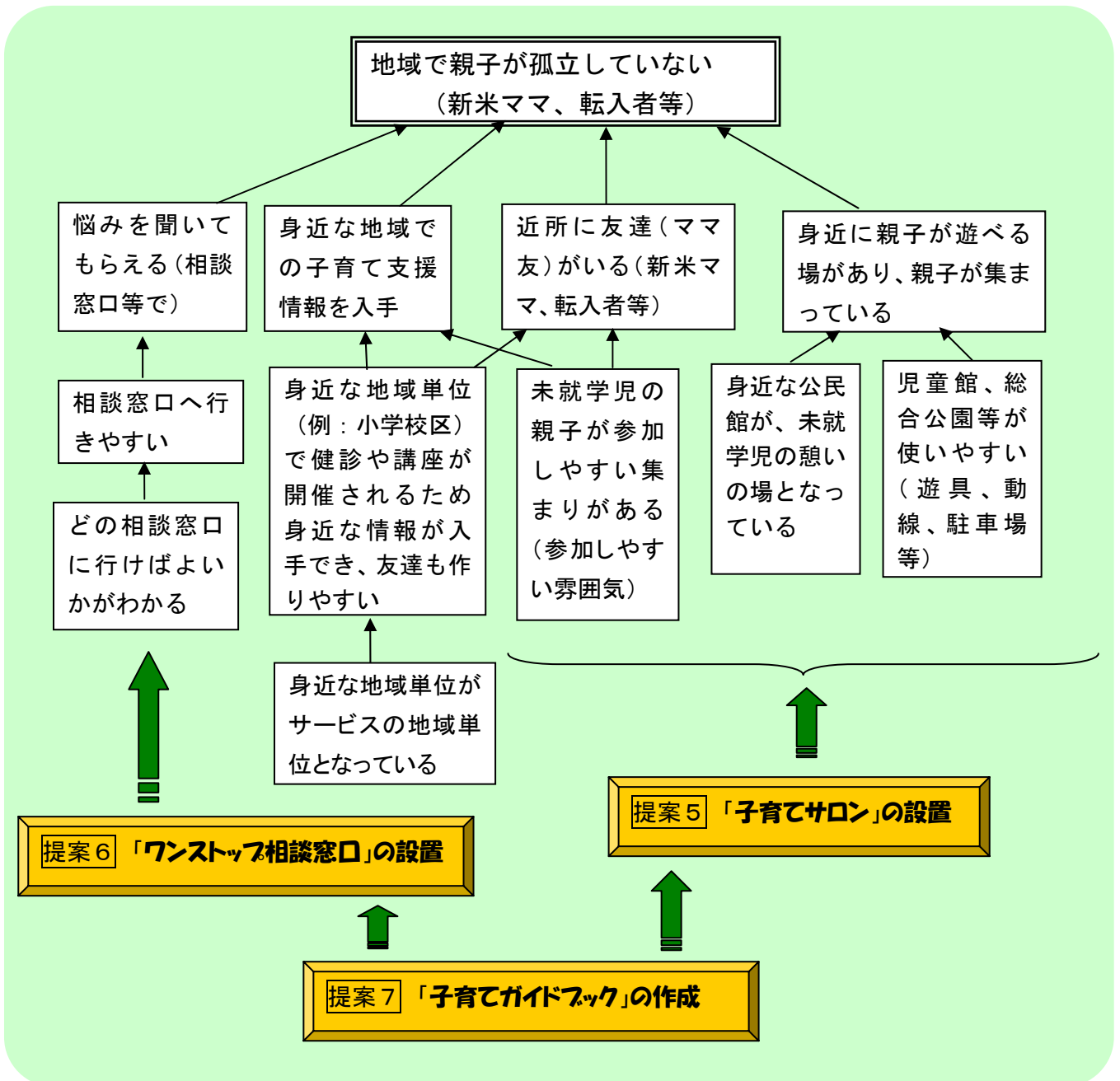
いつでも気軽にふらりとといける「子育てサロン」をつくります。

提案6 「ワンストップ相談窓口」の設置

子育てについて、どんなことでも気軽に相談できる窓口をつくります。

提案7 「子育てガイドブック」の作成

知りたいことが何でも載っている「子育てガイドブック」をつくります。



提案5 「子育てサロン」の設置

| | |
|---------------------|---|
| <p>目的</p> | <p>曜日・時間帯によっては子育て中の親子が集える場があるが、子育て中のお母さんが、身近な場所（小学校区単位）で、いつでも気楽に集い、何でも話し合える場、友達を作れる場として「子育てサロン」を、地域の連携により設置する。</p> <p>母子手帳の支給時や出生届を提出した時に、身近な「子育てサロン」を紹介する。妊婦の時からも参加できることとし、子どもが生まれる前からお母さんどうしの交流を育む。</p> <p>お母さんの悩みによっては、適切な専門機関につないでいく。</p> |
| <p>概要</p> | <p>[名称アイデア]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てなんでも相談室 ・すくすく広場 <p>[会場、利用方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援センターや公民館などの既存施設を活用する。 <ul style="list-style-type: none"> －小さい子ども（赤ちゃん）と大きな子どもとで遊ぶ部屋を分ける。 －予約せずに朝～夕方ぐらいまで自由な時間に入出りできるようにする。 －駐車場の確保が望まれる。（施設の場所によっては） <p>[活動内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子で自由に遊べる、おしゃべりできる。（おもちゃなどがある。） ・参加者みんなでの遊び・歌（教えてもらえる。） ・簡単な相談（子どものこと、子育てのことなど何でも） <p>[広報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報紙、町内会の回覧板、チラシ、インターネット、口コミなど |
| <p>役割分担 ・体制</p> | <div style="text-align: center;"> <div style="border: 2px solid black; background-color: yellow; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>いつでも気軽に集い・楽しく交流できる「子育てサロン」の設置 (小学校区ごとに地域で協力して運営)</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>参加 交流</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80px; margin: 0 auto;">親子</div> </div> <div style="text-align: center;"> <p>遊び・交流の支援 相談相手</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px; margin: 0 auto;">ボランティア (子育て経験者)</div> </div> <div style="text-align: center;"> <p>おもちゃ・ 服などの寄付</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80px; margin: 0 auto;">地域 住民</div> </div> <div style="text-align: center;"> <p>会場提供 関係機関との連携</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px; margin: 0 auto;">公共施設 (支援センター 公民館 等)</div> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> </div> </div> <p>※まず、地域の親子を含めて、関係者で話し合い、どのようなサロンにするのかを話し合い、運営体制を確保しながら、徐々にかたちにしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> －立ち上げ時から毎日開催する必要はない。（無理する必要はない。） －いきいきサロンが活性化しているので、運営の秘訣を社協から教わる。 －体制ができた地域から開設していく。 |

提案6 「ワンストップ相談窓口」の設置

| | |
|---------------------|--|
| <p>目的</p> | <p>子育てをしていると様々な悩みや困りごとがある。相談を聞いてもらえることで、安心することもある。現在も様々な窓口が設けられているが、どこへ相談すればよいのかがわかりにくいといった課題がある。そのため、孤立している親子、一人で悩んでいる保護者もいると思われる。</p> <p>そこで、保護者が抱える様々な悩みをワンストップで受け付ける相談窓口を設置する。これにより、「どこへ相談すればよいか」ということで戸惑うことがなくなる。ワンストップ窓口では、寄せられた悩みをどんなことであっても、まず受け止めることに徹し、必要に応じて専門機関へつないでいく。赤ちゃん相談の延長的なもので、1才以降の親子が気軽に相談できるようにする。「気軽に相談できる窓口」として相談実績を積み重ね、親子への周知をはかる。</p> <p>利用者が相談しやすいように、「相談員が対応する窓口」と「電話による相談窓口」の両方を設置する。</p> |
| <p>概要</p> | <p>[名称アイデア]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て何でも相談 ・子育ての疑問・悩みには、まずはお電話一本！ <p>[相談員が対応する窓口]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な場所（小学校区単位）での設置が理想である。 （場所の例）公民館、小児科、保育園、スーパー等 ※保健所、保健センターが遠くて利用しにくい人もいるため。 ・夜間（19時～21時ぐらい）や土日に相談できる窓口も別途必要である。 ・相談することで気持ちやストレスが整理できる場合もあるので、相談したい人が「言いたい所まで話せばよい」こととする。（愚痴を聞くだけでよしとする。） ・小さな子どもを預かり、子どもを遊ばせながら、相談できるようにする。 <p>[電話相談]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理想は24時間の受付だが、昼間よりも夜間のニーズが高いと考えられる。 ・どんな相談でも受け止め、必要に応じて来所を促したり、関係機関につなぐ。 |
| <p>役割分担 ・体制</p> | <pre> graph TD A[悩み・ストレスを抱えている保護者] -- "チェックシートによる状況把握→相談" --> B[窓口相談(ワンストップ受付)] A -- "相談" --> C[電話相談] B <--> "連携" C B <--> "連携" D[専門的な関係機関(専門家)] C <--> "連携" D D -- "助言・支援" --> A </pre> |

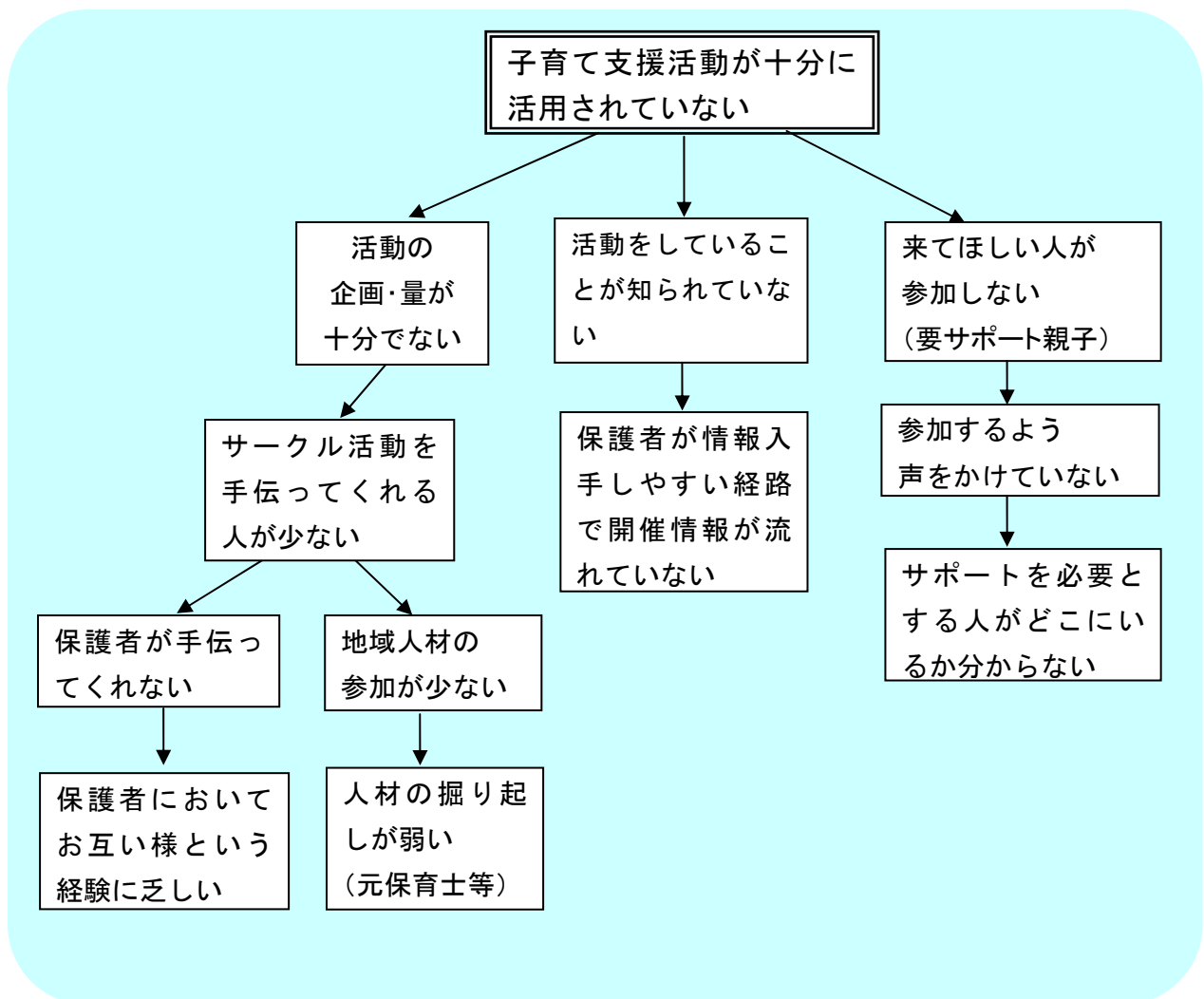
提案7 「子育てガイドブック」の作成

| | |
|---------------------|--|
| <p>目的</p> | <p>松山市には、子育てを支援するための施設やサービスなど様々な社会資源があるが、必ずしも有効には活用されていないと思われる。「今あるものをもっと活かす！」ことが必要である。</p> <p>安心して子育てをするために、楽しんで子育てをするために、行政や民間の子育て支援サービスの情報をわかりやすく提供し、これらのサービスの有効活用につなげることで、育児の負担や不安を少しでも軽減する。</p> |
| <p>概要</p> | <p>[名称アイデア]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て総合便利ノート ・困った時のお助けガイドブック ・子育て楽しくガイドブック ・子育ていろいろお役立ちBOOK! ・安心ガイドブック <p>[内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『このような時こうすればよい』というような調べ方ができるガイドブック (例) 遊ぶ、食べる、病気、相談(発達、虐待等)、保育所・幼稚園 ・関係機関・施設の情報 (名称、施設やサービスの内容、営業時間、休業日、所在地、電話番号) ・支援制度や補助金の内容 ・専門家によるコラム(行政、支援センター、保健師から伝えたいこと) <p>[編集での工夫]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の親子や子育て経験者の声を取り入れて冊子の原稿を作成する。パソコンや携帯電話のネットを使わない保護者の意見も把握する。 ・0～6歳までの各歳別で作成。毎年4月に必要分を受け取れるようにする。 ・実用的でわかりやすいものとする。(ビジュアル・見出しの工夫、開きやすさなど) <p>[配布方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なタイミングで配布する。(転入者もいるため) (産婦人科受診、母子手帳配布、出生届提出、赤ちゃん訪問、3ヶ月健診等) ・インターネットにもガイドブックのページを設ける。 |
| <p>役割分担 ・体制</p> | <pre> graph TD A["子育て中の保護者 子育て経験者"] -- "提案・要望 (アンケートに回答)" --> B["「子育てガイドブック」編集会議 ～市民の声をとり入れて作成～"] C["行政・関係機関"] -- "編集会議に参加" --> B B --> D["「子育てガイドブック」 の作成 (行政、民間の情報)"] D -- "様々なタイミングで冊子を配布 インターネットでの公開・ダウンロード" --> E["子育て中の保護者 子育て経験者"] </pre> |

②子育て支援活動が十分に利用されていない

【松山のここが問題！】

- ・子育ての課題・不安として、「子育て支援活動が十分に活用されていないこと」があげられます。
- ・その要因として、「活動の企画・量が十分でない」「活動をしていることが知られていない」「来てほしい親子が参加していない」ことなどが考えられます。



【将来の松山こうなったらいいな！】

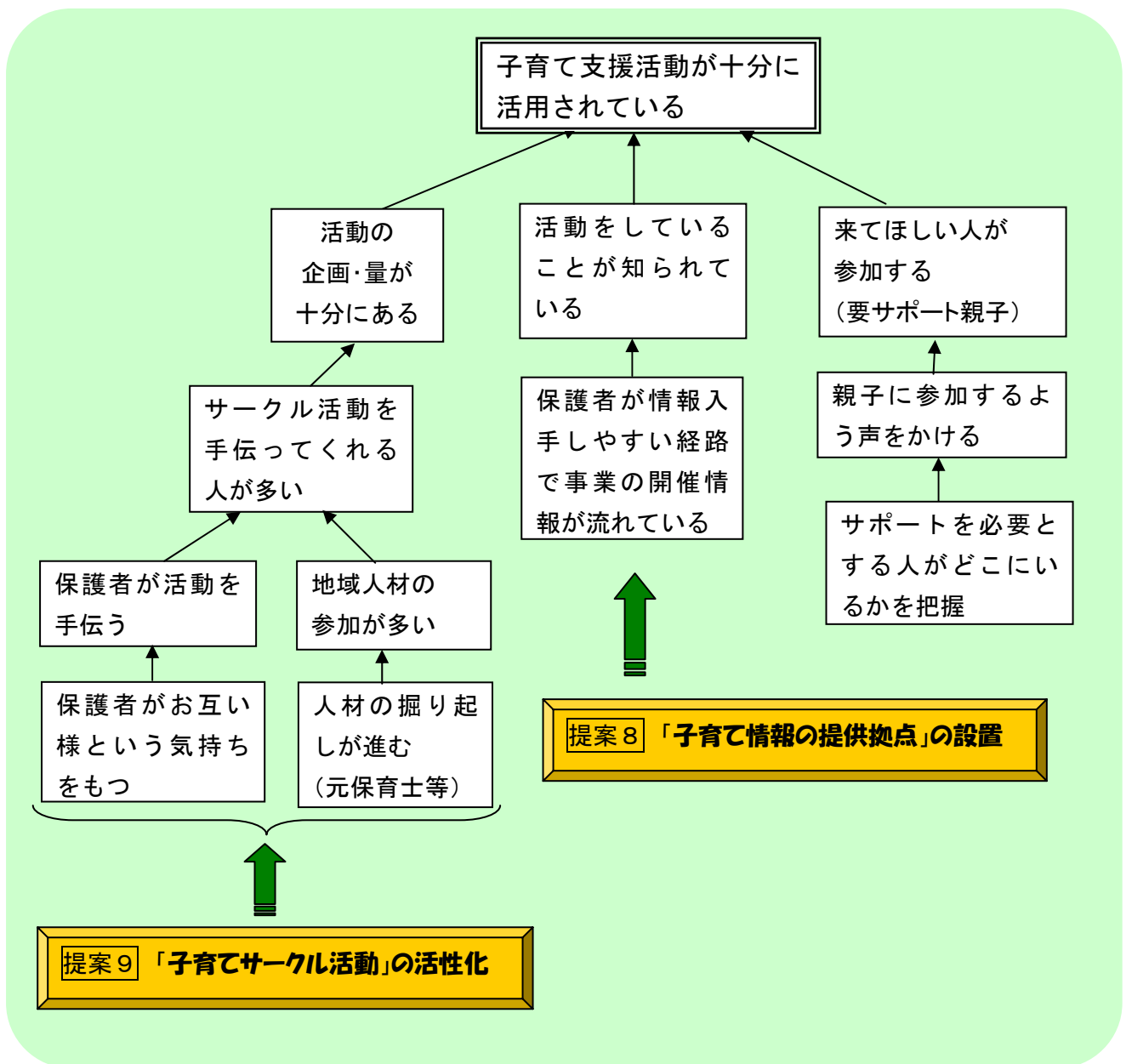
・地域での子育て支援活動が十分に活用されるよう、次の2つの取組アイデアをまとめました。

提案8 「子育て情報の提供拠点」の設置

身近な地域で行われる子育て支援活動の情報を身近な場所で提供します。

提案9 「子育てサークル」活動の活性化

より多くの人々の参加を得て、子育てサークルの活動を活性化します。



提案8 「子育て情報の提供拠点」の設置

| | |
|---------------------|---|
| <p>目的</p> | <p>松山市では、日々、様々な子育て支援に関わる行事・イベントが行われているが、開催場所が遠かったり、対象年齢が自分の子どもに合わない場合は参加することができない。多くの情報の中で、実際に参加・利用が可能な行事・イベントの情報が埋もれてしまい、見逃してしまうことも起こっているように思われる。</p> <p>そこで、身近な地域で行われる行事・イベントなどについての情報を、子育て中の親子がよく行く場所で提供する。</p> |
| <p>概要</p> | <p>[名称アイデア]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みてみて！あなたの〇〇地区の子育て情報！ ・子育てBOX ・知ってる？子育て情報まつやま <p>[子育て情報の提供拠点]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てをしている保護者がよく行く場所 (例) スーパー、コンビニ、病院(小児科、産婦人科等)等 ・健診会場(小学校区単位で開催する。友達ができる機会にもなる。) <p>[提供する情報]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象年齢別での行事・イベント情報(親子ひろば、外遊びなど) ・子育てサークルなど事前に登録している団体の情報 ・子連れでの食事がOKな飲食店の情報 ・様々なクーポン券、セールなどの割引情報 ※最寄りの地域に関わる情報に限定する。 ※情報がほしい人、情報を発信したい人が集まり、どのような情報を提供するのかを検討する。また、チラシの配布・管理の体制をつくる。 <p>[運営方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協力店舗を募集する。 ※店員は、子ども連れの利用者がきたら情報をみるように促す。 ※協力店舗にもメリットがあるような工夫をする。 ・産婦人科では、最寄りの子育て支援拠点(保育所・幼稚園)や子育て情報の提供拠点の場所を妊婦に教える。 |
| <p>役割分担 ・体制</p> | <pre> graph TD A[子育て中の親子] -- 来店 --> B["「子育て情報の提供拠点」の設置 (身近な店舗等でチラシ等を配布)"] B -- "情報提供 (チラシ等)" --> A B -- "新しいチラシの配達" --> C["「子育て情報の提供拠点」の運営体制"] C -- "古いチラシの回収" --> B C -- "発信したい情報 (新しいチラシなど)" --> D["情報を発信したい主体"] D --> E["子育て親子向けの 各種イベント、サービス"] E -- "子育て 支援活動" --> D subgraph D D1[行政] D2[子育てサークル] D3[店舗等] end </pre> |

提案9 「子育てサークル活動」の活性化

| | |
|---------------------|---|
| <p>目的</p> | <p>「みんなで助け合おう子育て！！（一人じゃないよ♪）」という趣旨で「子育てサークル」が様々な活動をしているが、あまり知られていない。また、自分たちで「子育てサークル」を作ろうという動きも少ない。</p> <p>楽しんで子育てをしていくために、子育て中の親どうしが相談しあって子育てができる環境づくりの一つとして、子育て経験者の協力などを得ながら、松山市において「子育てサークル」の活動を活性化し、子育てに一人で悩んでいる保護者を減らす。</p> |
| <p>概要</p> | <p>[名称アイデア]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分達でつくろう育児サークル♪ <p>[取組内容]</p> <p>①既に活動している「子育てサークル」に対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てサークルの活動情報（時間、場所、活動内容）の発信 （例）子育てサークルについての情報誌の作成 ・子育てサークルに対する支援制度の情報の提供 （例）事業者による活動補助制度 ・子育てサークルの活動内容の充実の支援 －魅力的な活動内容となるように関係機関が協力 （例）子どもの健診、ベビーマッサージ、お話会などの活動 <p>②新たな「子育てサークル」の設立支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子育てサークルアドバイザー」による支援 －子育てサークルの設立方法についての情報提供・助言 －子育てサークルの設立の呼びかけ －子育てサークルの運営についての助言 <p>※子育てサークルを巣立った人などに、「子育てサークルアドバイザー」などとして運営に協力していただく。</p> |
| <p>役割分担 ・体制</p> | |

参考資料

■第1回意見交換会のまとめ

■参加者名簿

市市民意見交換会(ラウンドテーブル):少子化対策① A:子育ての相談環境

課題

ネットワーク

相談できる場所を知っている人が少ない(行きやすい、参加しやすいものに)

小学校に入るまで地域のつながりがない

母子手帳に「相談できる人はいますか?」とあるが、必要なのは手助けしてくれる人である

町内会費を払わない、地域活動に関わらないマンションがある

情報発信

地域によっては広報紙がマンションに入らない

校区を移ったら情報が入らなかった

人材

子ども会役員が1年で替わるので新しいことができない
小児科で発達障害についてきちんと向き合った話をしてくれるといいなあ
「様子見ましよう」ではなく

核家族で相談者が少ない(地域・近所の中に子どもが小学生にならないうと入りにくい)

親が地域の人と関わらない

親に時間がない(仕事がある)

ご主人が忙しすぎる。子育てに関わる時間の確保(「子育ての日」の休日設定)

車がないとどこにも行けない

相談場所はたくさんあると思うが、知らない人が多いのでは?

松山市保健師の方の自宅訪問の方もっと情報がある人だといいなあ(業務的すぎる)

取組

ネットワーク

子育ての先輩から話を聞けるように

同じ月齢(年齢)の子どもを持つ母親が集える場所がたくさんある? 保育園・児童館以外にも近くの公民館を開放するなど...

地域の中でいつでもあつ場所へ行けば誰かがいてくれる
新しい地域の絆をつくる

子育て中の親に心の栄養になる講演をたくさん開く

スーパーに子育て相談の場
親の意識改革(自立した人間を育てることに注力する)

親に対する理想が高すぎる

子どものしつけや子育てのアドバイスなどの講演(堅苦しくないもの)がたくさんあります(子ども連れで)

親育てに取り組み

マンションに託児所が必要(条例で制定)

子ども会に幼稚園児などでも入れるように
子ども会を行政が支援

情報発信

県外から来た人に情報提供を

地域の行事などについて声がけしていく

マンションの新しい住民の把握+情報提供

町内会に入らない人も情報が伝わるようにする
情報発信の方法を変える(若い人向けに)

行政が情報発信に力を入れて取り組む

地域に根付くためには最初の情報が必要

民生委員が転入者を把握する

紙の広報を活用して欲しい

拠点・人材

公民館を活用(公民館(主事)が情報発信する)

公民館を拠点に

公民館主事など行政が継続的に取り組む

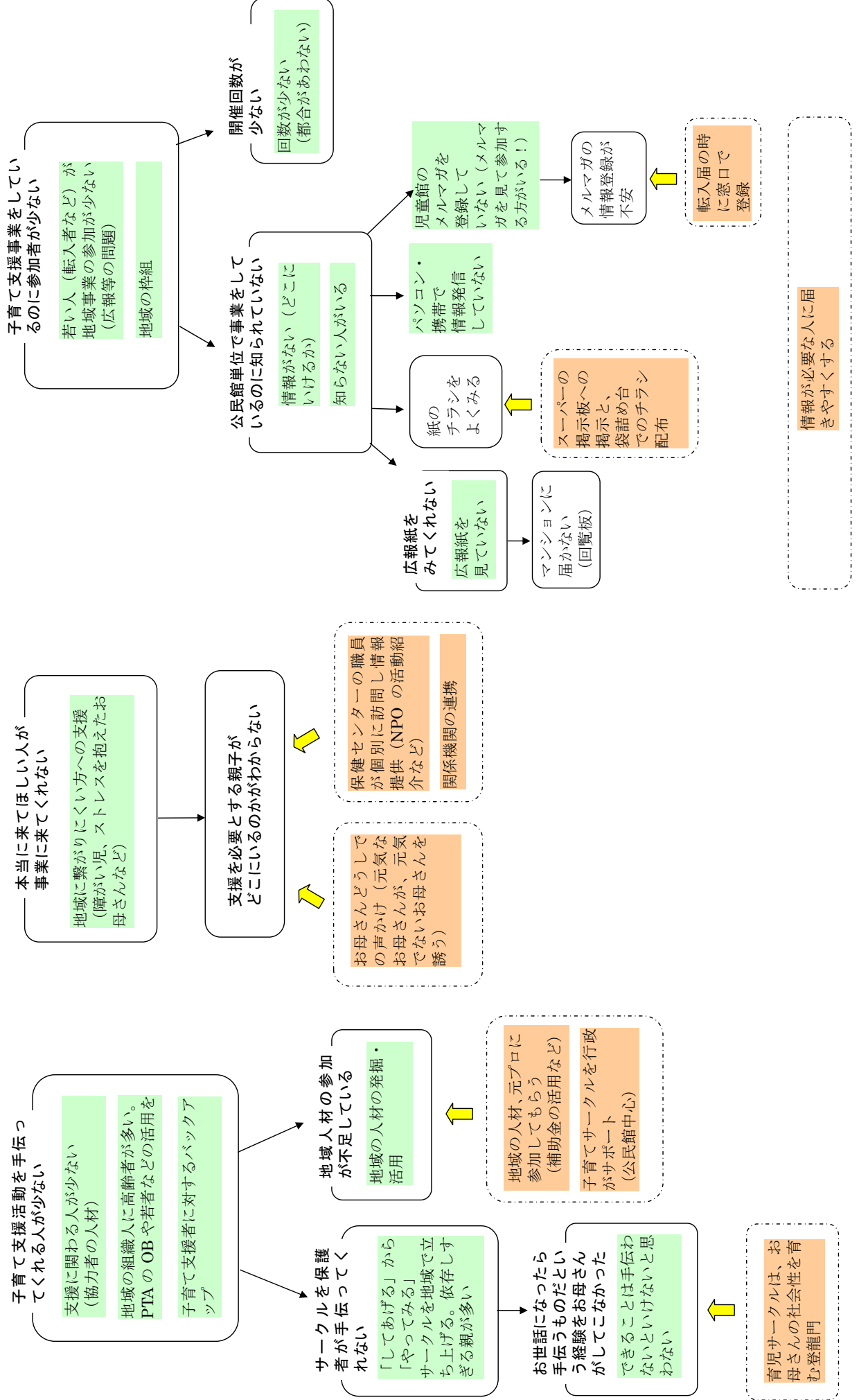
市の支所を拠点に取り組む(小地域単位で)

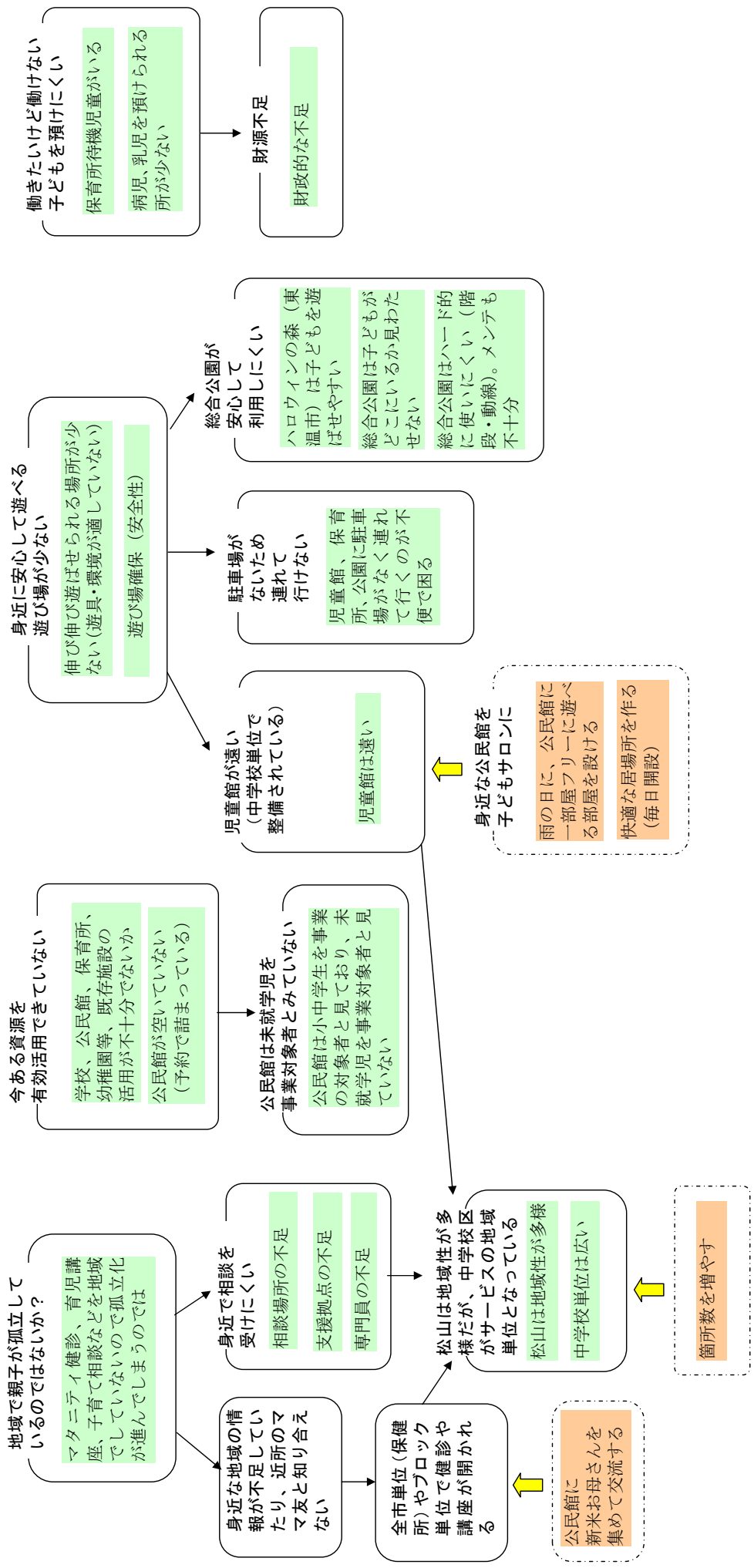
地域の人を活用(入りやすい拠点、広報)

松山市全体で取り組む

高齢人材の活用

■市民意見交換会(ラウンドテーブル):少子化対策① B:地域における子育て支援

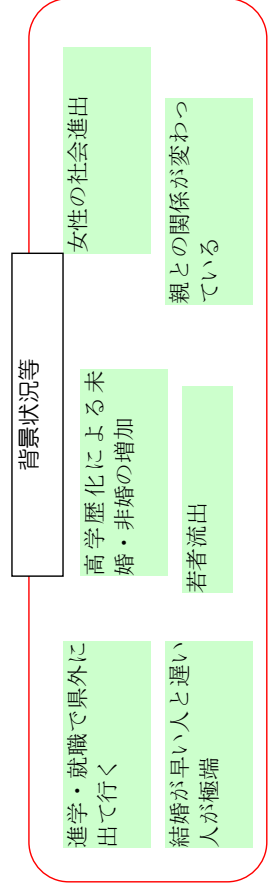
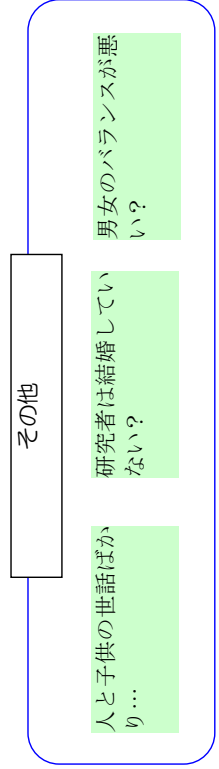
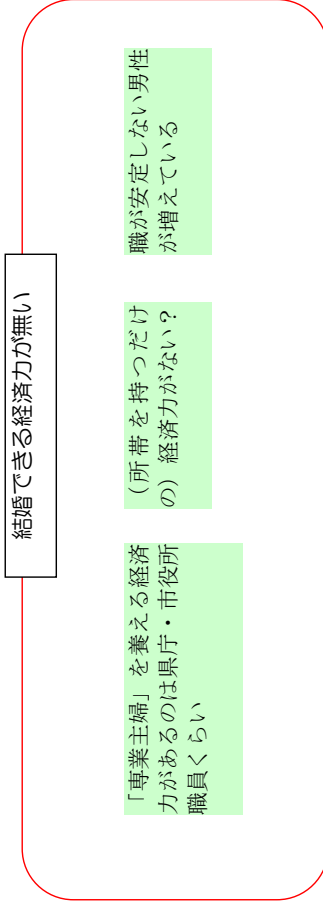
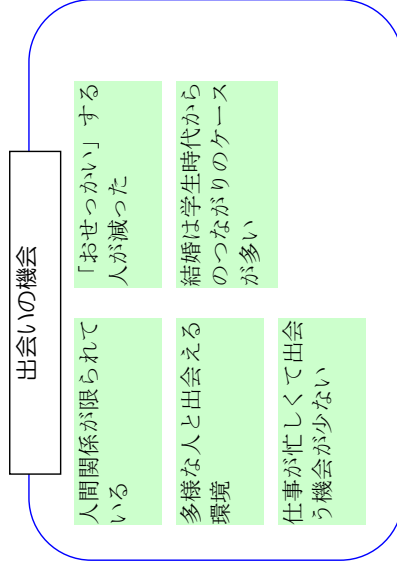
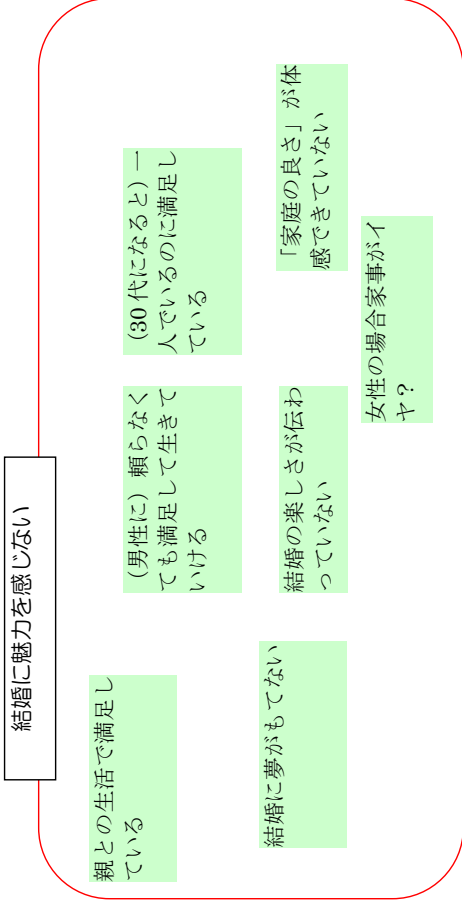
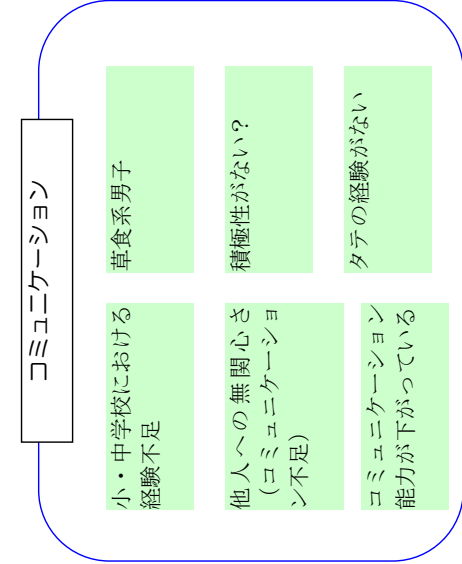




■市民意見交換会(ラウンドテーブル):少子化対策① C:少子化の原因 (出会い～結婚まで)

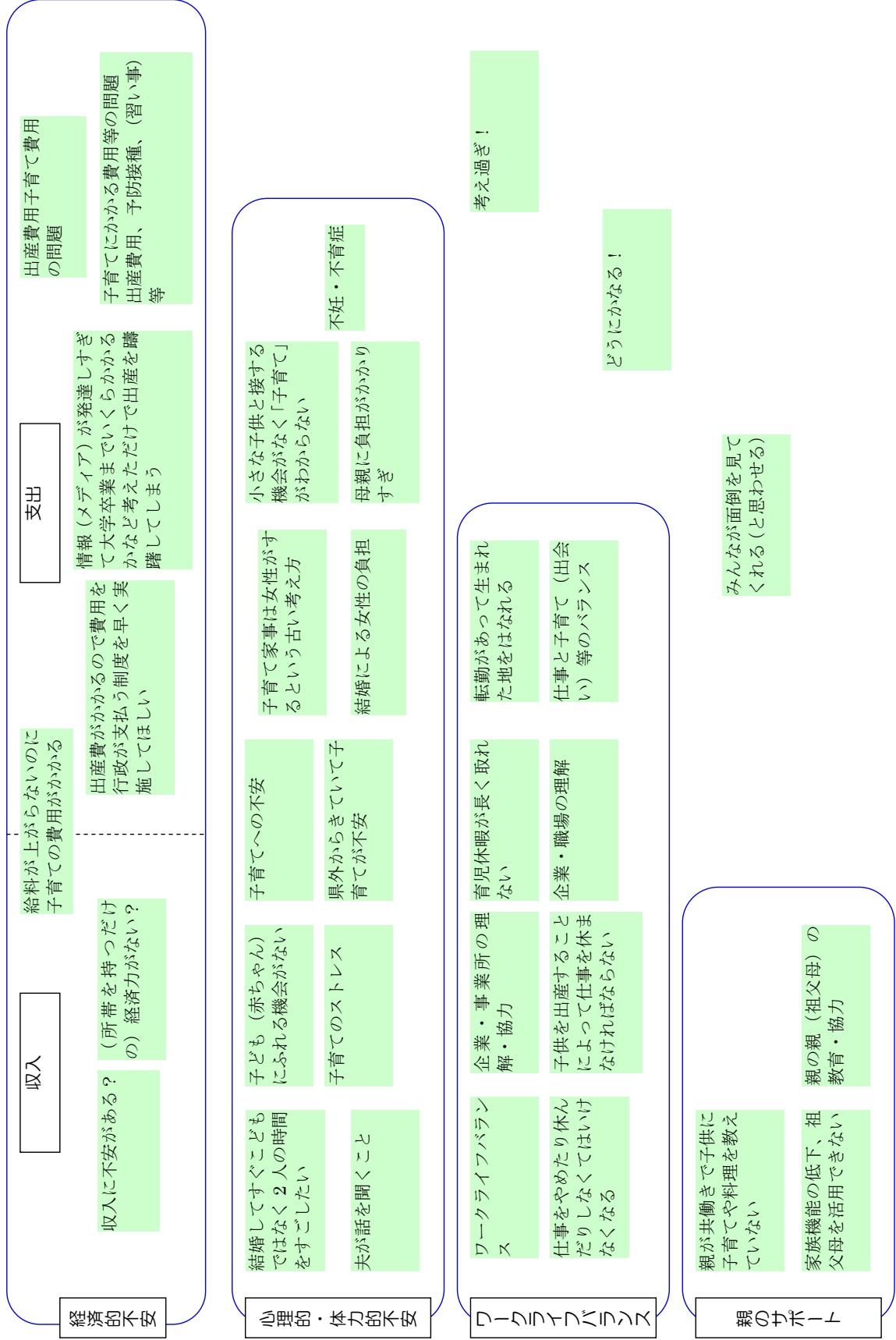
出会いがない？

結婚しない



■市民意見交換会(ラウンドテーブル):少子化対策① C:少子化の原因 (結婚～出産まで)

出産への不安



■市民意見交換会（ラウンドテーブル）：少子化対策 参加者名簿

（敬称略，50音順）

| No. | 氏名 | 所属・役職等 |
|-----|--------|----------------------------|
| 1 | 相原 真由美 | 公 募 |
| 2 | 安藤 有紀 | 松山市知的障害児通園施設ひまわり園 児童指導員 |
| 3 | 伊賀上 恵子 | 松山みらいクラブ連絡協議会 会長 |
| 4 | 一色 珠里 | 公 募 |
| 5 | 上岡 周介 | えひめ乳児保育園 園長 |
| 6 | 戒田 紀美子 | 公 募 |
| 7 | 門田 眞知江 | 松山市民生児童委員協議会児童福祉部会 会長 |
| 8 | 川手 美香 | 公 募 |
| 9 | 敷村 一元 | 生石保育園 園長 |
| 10 | 新倉 綾香 | 公 募 |
| 11 | 恒吉 和徳 | 聖カタリナ大学人間健康福祉学部 教授 |
| 12 | 西村 恭子 | 公 募 |
| 13 | 曲田 志保子 | 松山東雲女子大学心理子ども学科 教授 |
| 14 | 松永 奈緒子 | 公 募 |
| 15 | 松本 真美 | 松山市小中学校PTA連合会 会長 |
| 16 | 丸山 美保 | 朝美保育園 園長 |
| 17 | 三木 ひとみ | 公 募 |
| 18 | 宮下 綾子 | 公 募 |
| 19 | 森 公夫 | ひかり保育園 園長 |
| 20 | 山本 由美子 | 特定非営利活動法人子育てネットワークえひめ 代表理事 |

市民意見交換会（ラウンドテーブル）

テーマ２：雇用の促進

1. 開催概要

■検討テーマ

- ・「テーマ2：雇用の促進」では、雇用確保に向けた取り組み・人材確保及び育成などについて検討しました。

■取り上げた課題と提案

- ・3回の意見交換会を通じて、様々な問題提起がありました。その中で、次の問題に対する取組アイデアについて意見を出し合い、12の提案をまとめました。

| 松山のここが問題！ | 松山を変えるアイデア！ | 頁 |
|-----------------------|--------------------------|----|
| (1)雇用の受け皿が増えない | | |
| ①既存企業の成長が弱い | 提案1 既存企業のレベルアップ(坂の上の雲) | 37 |
| | 提案2 市内ビジネスネットワークの充実 | 38 |
| | 提案3 補助金・支援制度の活用促進 | 39 |
| | 提案4 ものづくりのブランド化と国際展開支援 | 40 |
| | 提案5 松山農業の6次産業化の促進 | 41 |
| ②企業誘致による雇用が少ない | 提案6 企業誘致の強化と定着促進 | 42 |
| ③起業が少ない | 提案7 起業の促進 | 43 |
| (2)成長に必要な人材が確保できない | | |
| ①既存社員に必要な能力が不足 | 提案8 社員の能力開発の支援 | 47 |
| ②若い人材を確保できない | 提案9 若い人材の地元就職の促進 | 48 |
| ③安定した職に就けない就業者・離職者がいる | 提案10 求職者の職業能力の向上支援 | 49 |
| ④多様な人材の活用が不十分 | 提案11 多様な人材の採用の支援 | 50 |
| ⑤経営層の人材マネジメントに課題 | 提案12 経営層の人材マネジメント力の向上の支援 | 51 |

■開催概要

第1回 「松山のここが問題！」

趣旨説明、参加者紹介、テーマと進め方の説明の後、地域経済課と三好博さん（松山商工会議所）からオープニングトークをしていただきました。

その後、「雇用確保、人材の確保・育成のここを何とかしたい！」をテーマに、次の3つのテーブルを巡り、存分に語っていただきました。

- A：雇用の受け皿づくり
- B：人材づくりと活用
- C：その他の雇用促進策



（日時：11月14日(月)19:00～21:00、場所：松山センタービル1号館 4階第1会議室）

第2回 「松山をこんなまちにしたい！」

第1回のふりかえりの後、次の2つの検討グループに分かれて、「こんな仕事に就きたい！」「こんな仕事を松山に増やしたい！」「こんな人材と出会いたい！」「こんな人材と働きたい！」をテーマに、まちづくりの方向性（将来、松山がこうなったらいいな）や取組アイデアを話し合いました。

- 1班：雇用の受け皿づくり
- 2班：人材づくりと活用



（日時：11月24日(木)19:00～21:00、場所：松山センタービル1号館 4階第1会議室）

第3回 「松山を変えるアイデア！」

第2回のふりかえりの後、第2回と同じ検討グループに分かれて、「松山を、もっと仕事に就きやすいまちに変えるアイデア！」「ここから松山を変えよう！」をテーマに取組アイデアを話し合いました。

意見交換会の閉会にあたって、参加者の皆さんから感想・今後の抱負などを一言ずつお話しいただきました。

- 1班：雇用の受け皿づくり
- 2班：人材づくりと活用



（日時：12月1日(木)19:00～21:00、場所：シュロス日銀前 4階第1会議室）

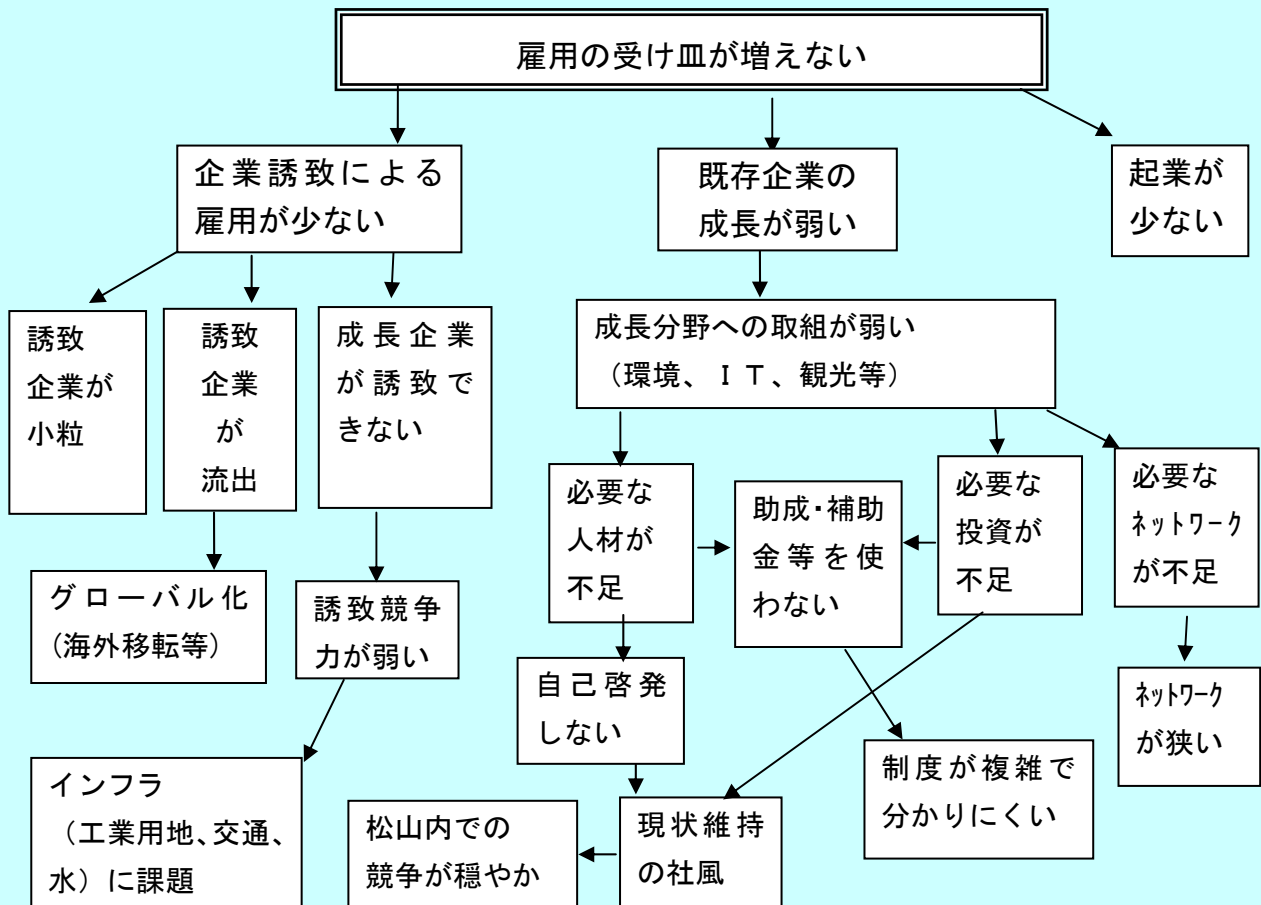
2. 松山の問題と「松山を変えるアイデア（提案）」

(1) 雇用の受け皿が増えない

- ①既存企業の成長が弱い、②企業誘致による雇用が少ない、③起業が少ない

【松山のここが問題！】

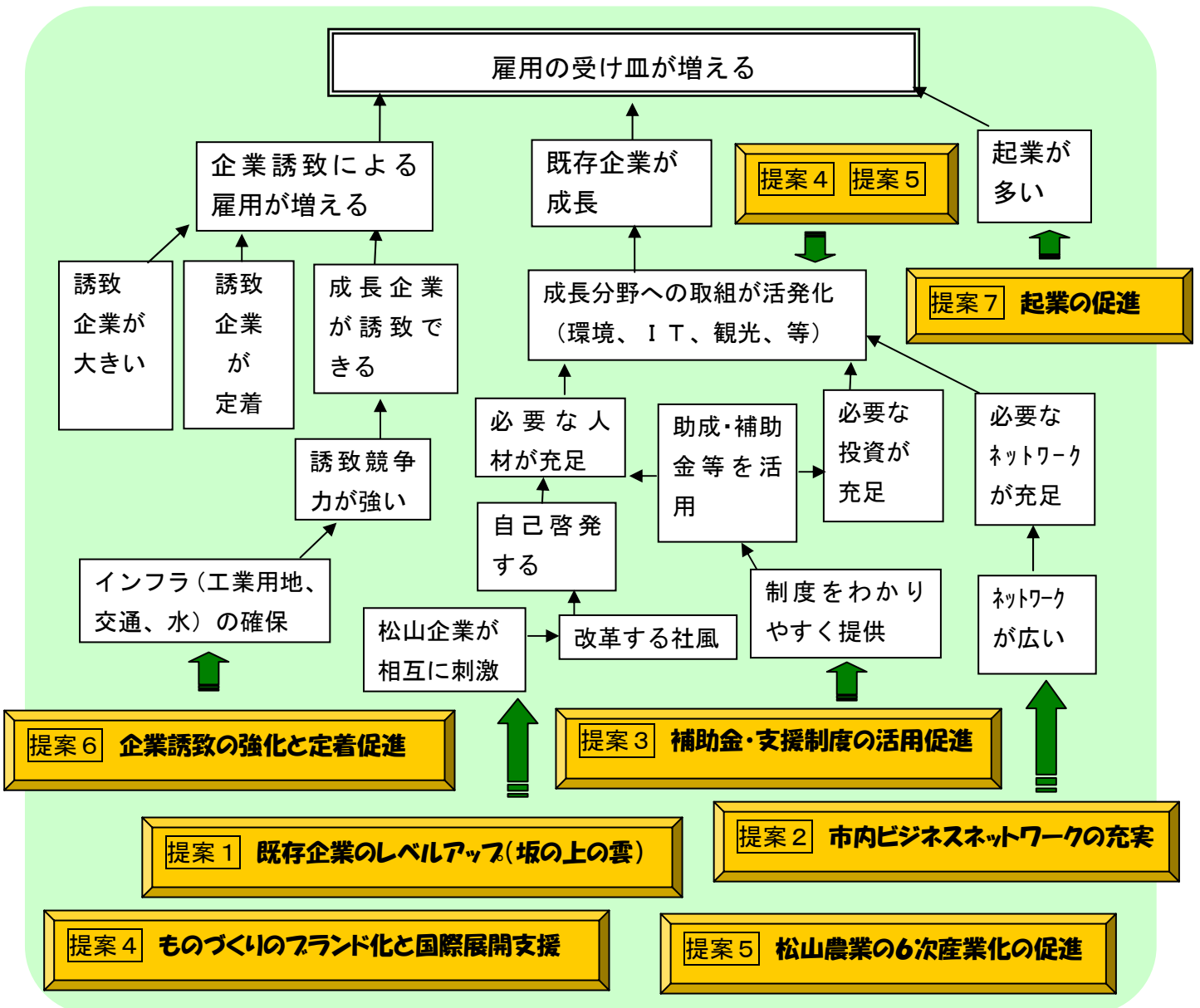
- ・「雇用の促進」に向けた課題の一つとして、「雇用の受け皿が増えない」ことがあげられます。
- ・その要因として、成長分野への取り組みが弱いことなどから「既存企業の成長が弱い」、成長企業が誘致できないことなどから「企業誘致による雇用が少ない」、「起業が少ない」などが考えられます。



【将来の松山こうなったらいいな！】

・雇用の受け皿を増やすため、次の7つの取組アイデアをまとめました。

- | | | | |
|-----|--------------------|-----|---------------|
| 提案1 | 既存企業のレベルアップ(坂の上の雲) | 提案5 | 松山農業の6次産業化の促進 |
| 提案2 | 市内ビジネスネットワークの充実 | 提案6 | 企業誘致の強化と定着促進 |
| 提案3 | 補助金・支援制度の活用促進 | 提案7 | 起業の促進 |
| 提案4 | ものづくりのブランド化と国際展開支援 | | |



提案1 既存企業のレベルアップ(坂の上の雲)

| | |
|---------------------|---|
| <p>目的</p> | <p>既存企業が、自立的に成長分野等でのビジネスチャンスの拡大に取り組み、より成長していけるような仕組みをつくる。</p> <p>既存企業が、現状よりも高いレベル(坂の上の雲)をめざすことを支援することで、事業の拡大や活性化につなげ、雇用の維持・創出を図る。</p> |
| <p>概要</p> | <p>①成長分野への既存企業の取組支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 成長分野でのビジネスチャンス拡大に向けた、既存企業の自立的な取組を促すため、活動内容や事業成果等を評価し、結果を残した企業に奨励金を支給する。 成長分野でのビジネスチャンス拡大に向けた、既存企業の人材育成(技能習得、資格習得など)の取組に対して補助金を支給する。また、企業に対して、産業分野別の資格情報を提供する。 <p>②既存企業の投資促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存企業の投資を促進するため、事業者が共同して店舗や事業所等を建て替える際に補助金を支給する。(例：商業等共同建替補助制度) <p>③既存企業の情報発信の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内企業の情報発信力を高めるため、市内企業のデータベースを作成するとともに、各企業におけるホームページの作成を促進する。既存企業の情報発信力を強化することで、必要人材の確保や就業希望者とのマッチングを促進する。 <p>④市内取引の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内取引を活発化するため、行政による公共事業等の地元企業への優先発注を拡大する。 民間企業においても、地元企業との取引を優先する仕組みをつくる。 |
| <p>役割分担 ・体制</p> | <p style="text-align: center;">より高いレベルをめざして、自立的に取り組む既存企業が増える ～坂の上の雲をめざして～</p> <p>ビジネスチャンス拡大に取り組む既存企業 → 市内取引の活発化</p> <p>成長分野への取組促進 ・奨励金 ・人材育成補助金</p> <p>既存企業の投資支援 ・建替補助等</p> <p>情報発信の支援 ・企業データベースの構築 ・ホームページ作成支援</p> <p>市内取引の活性化促進 ・公共事業の地元優先発注 ・民間地元発注の促進</p> <p style="text-align: center;">行政</p> |

提案2 市内ビジネスネットワークの充実

| | |
|---------------------|--|
| <p>目的</p> | <p>松山市内での企業、企業人の交流を活発化することで、ビジネスネットワーク（取引関係）の拡大につなげ、市内経済を活性化する。</p> |
| <p>概要</p> | <p>①企業間での交流の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な企業間交流を育むため、次のような企業交流会を開催する。事務局（経済団体等）は、企業と企業とをつなぐプロデューサーとしての役割を果たす。 （例）大規模な異業種交流会 これまで取引関係がほとんどない企業同士での交流会 経営理念が似ている企業同士での交流会 多様な企業の連携による共同事業を実施する。 （例）企業コンソーシアムへの公共工事の発注（＝企業による共同受注） 専門性の高い技術者の共同育成（技術学校など） 企業間での人材交流（地域・業種を問わず、人材を相互に研修等で派遣） <p>②企業人の交流の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ目的を有する企業人が集まる場として、何らかのテーマを設定した討論会を開催する。（単に親睦をはかる交流会にしない。） FacebookなどのSNS（ソーシャルネットワークサービス）への参加を促し、ネット上での企業人の交流を活発化する。それを現実世界でのビジネス交流の活発化につなげる。 |
| <p>役割分担 ・体制</p> | |

提案3 補助金・支援制度の活用促進

| | |
|---------------------|---|
| <p>目的</p> | <p>国・県・市などが、様々な補助金や支援制度を実施しており、利用者にとって非常にわかりにくくなっている。</p> <p>補助金や支援制度の情報を集約し、利用者の目的別に整理・提供することにより、利用者が補助金や支援制度を活用しやすくなる環境を整える。</p> |
| <p>概要</p> | <p>①補助金・支援制度についての情報の一元的な提供</p> <p>[概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国・県・市などにより実施されている補助金や支援制度に関する情報を、ワンストップで網羅的に入手できるようにする。 ・カタカナの用語などは、日本語でわかりやすく説明する。 <p>[情報発信]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント等でワンストップでの情報提供について情報発信する。 |
| <p>役割分担 ・体制</p> | |

提案4 ものづくりのブランド化と国際展開支援

| | |
|---------------------|--|
| <p>目的</p> | <p>松山市のものづくりの競争力を高めていくため、企業・行政が一体となって、ものづくりのブランド化や、海外マーケットへの国際展開に取り組む。</p> |
| <p>概要</p> | <p>①ものづくりのブランド化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期的な視点から、松山のものづくりブランドをつくる。松山市のものづくり企業の製品について、環境、デザインなどのテーマ別にブランド化を図るとともに、マーケティングを協力して実施する。 （体制例）企業による自主的な協力組織「松山ギルド」の創設 ・ものづくりの技術力を示すため、市内の企業が協力し、代替エネルギー、医療、ITなどの成長分野の製品を部材から最終製品まで一貫して製造する。 （福祉分野の例：介護する人が無理なくできる機械・器具の開発） ・サンシャインプロジェクトなど成長分野の取組については、短期的に実績が上がらずとも、長期的な視点から育成に取り組む。 （例）長期な資金借入補助制度の充実 <p>②海外マーケットへの国際展開支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松山のものづくりを、成長が期待される海外マーケットに売り込んでいくため、松山市の企業・行政が一体となり、マーケティングや特許取得、海外での模倣品対策などに取り組む。 |
| <p>役割分担 ・体制</p> | |

提案5 松山農業の6次産業化の促進

| | |
|---------------------|---|
| <p>目的</p> | <p>松山農業の高付加価値化を進めていくため、6次産業化を推進するとともに、意欲ある農業者の新規就農や農業経営体の形成を促進する。</p> |
| <p>概要</p> | <p>①農業の6次産業化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無農薬野菜など、美味しく、健康によい産品の栽培・生産を促進する。 ・農業の高付加価値化を進めていくため、大学との連携を進める。 ・付加価値の高い加工品を「松山ブランド」として売り出し、高価格で販売できるようにする。 ・農・漁・林産品及びその加工商品を「日曜市」などで販売する。（場所は花園町など）。 ・6次産業化の推進に向けたビジネスコンペを開催し、高い評価を受けた提案者のビジネスモデルの実現を支援する。 <p>②意欲ある農業者の新規就農や農業経営体の形成を促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農希望者に農業機械・農地などをパッケージ化して提供・貸与する。 ・農地利用などに必要となる手続きなどについて情報を提供する。 ・農家の連携による大規模な農業経営体の形成を支援する。（法人化等） ・農産物が、それぞれの品目にとって最適な農地で栽培されるよう農地利用を最適化する。（適地適用） ・農業コストの低減のため、農業機械の共有を促進する。 |
| <p>役割分担 ・体制</p> | <pre> graph TD subgraph A [農業の6次産業化の推進] direction LR A1[付加価値の高い農産品の生産] --> A2[付加価値の高い加工品の生産と販売(松山ブランド)] end BC[ビジネスコンペ] -- アイデア --> A2 subgraph B [新規就農や農業経営体の形成を促進] direction LR B1[農業経営体の形成(法人化)] B2[新規就農者] end BU[行政・大学] -- 支援 --> A2 BU -- 支援 --> A1 B1 --> A1 B2 --> A2 </pre> |

提案6 企業誘致の強化と定着促進

| | |
|---------------------|---|
| <p>目的</p> | <p>地域経済の活性化のため、活力ある企業の誘致・定着を図る。</p> |
| <p>概要</p> | <p>①企業誘致の強化と定着促進</p> <p>[誘致をめざす企業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四国は世界でも少子化が進んでいる地域だが、教育機関や教育コンサル、人材育成産業の立地を促進し、少子化対策の先例を作る。 ・市内の雇用を生み出すなど、地域に利益をもたらす企業を誘致する。 <p>[立地企業への支援策]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松山に呼び込みたい分野の企業に集中して投資する。 (例) 他の自治体よりはるかに大きな補助金を支給 (50 億円以上) 工業用地を事前に整備 税制面での優遇 <p>[立地環境の整備]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフラ整備 (アクセスを便利にする。) ・人材育成 (→ 「よく働く」人材がいることをPR) ・住環境 (→ 賑わいがあり、ゆとりある暮らしをPR) <p>[誘致企業の定着に向けての取り組み]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誘致企業の社員等と地域とのつながりをつくる。 (例) 地域の行事への参加 ・松山に定着した誘致企業をロールモデルとして、他の誘致企業に紹介する。 |
| <p>役割分担 ・体制</p> | <pre> graph TD Admin[行政] -- 立地環境 ・インフラ整備 ・住環境 --> Business[活力ある企業の誘致と定着 (誘致をめざす企業：教育機関、教育コンサル、人材育成産業)] Admin -- 誘致施策 ・補助金、税制優遇 ・工業用地 --> Business Business -- 地域行事への参加 --> Society[地域社会] </pre> |

提案7 起業の促進

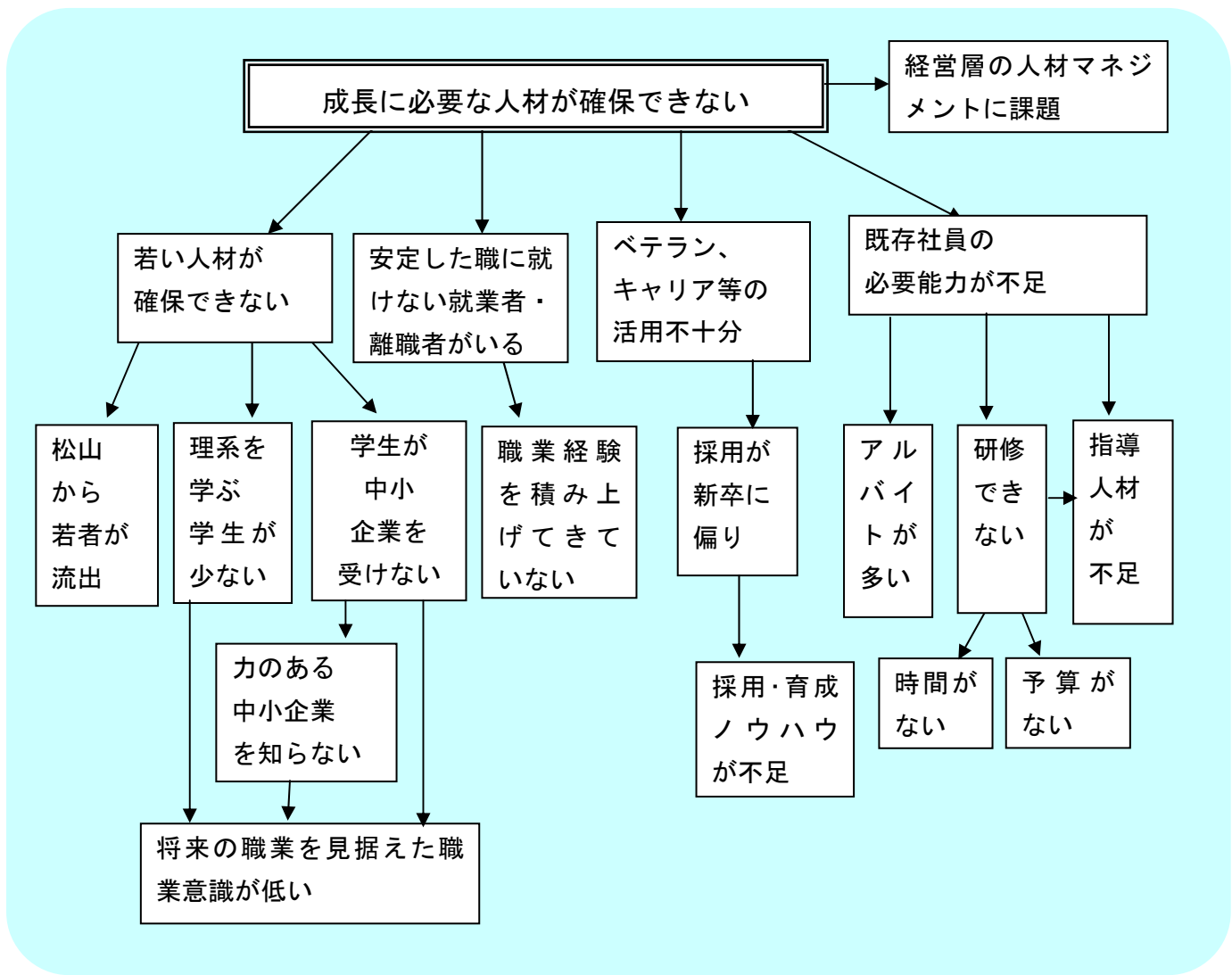
| | |
|---------------------|--|
| <p>目的</p> | <p>わが国では、中小企業が育ちにくい風土・歴史がある。2世、3世の経営者が多く、起業が少ない。起業を増やしていくためには、起業への不安（資金、その他）を解消していくことが必要である。</p> <p>起業は、社会問題を見つめ解決方法を探るところから始まる。例えば、高齢化が進む松山市では2025年までに在宅介護サービスの供給を増やしていくことが必要となっている。また、市場を世界に求めていくことも考えられる。</p> <p>松山市の経済を活性化するとともに、雇用の受け皿を増やしていくため、起業を促進する。</p> |
| <p>概要</p> | <p>①起業志望者を増やす取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会社の起こし方講座 ・経営者ロールモデル&メンター（メンティー）の紹介 （起業の先輩を紹介することで起業マインドを刺激する。） ・社会の不便、不安、不満などを解決する方策を考えるアイデア募集 （企業が懸賞金を出す。） <p>②起業の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起業志望者がプレゼンをして出資者を募るシステムを作る。 ・融資での金利優遇（起業ローン） ・NPOに対する融資制度の創設 ・同じ目的の人たちが集団で起業できるようにする場の提供 ・シニア（スキル、資格を持つ）+若者（やる気がある）のペアでの起業を促進 <p>③起業後の会社の成長支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経理・会計といった企業経営に関する支援 ・起業家と企業をつなぐネットワークづくりの支援 ・税金の優遇 ・起業失敗時の廃業のサポート |
| <p>役割分担 ・体制</p> | |

(2) 成長に必要な人材が確保できない

- ①既存社員に必要能力が不足、②若い人材を確保できない、③安定した職に就けない就業者・離職者がいる、④多様な人材の活用が不十分、⑤経営層の人材マネジメントに課題

【松山のここが問題！】

- ・「雇用の促進」に向けた課題の一つとして、「成長に必要な人材が確保できない」があげられます。
- ・その要因として、「既存社員に必要能力が不足」「若い人材を確保できない」「安定した職につけない就業者・離職者がいる」「多様な人材の活用が不十分」「経営層の人材マネジメントに課題」などが考えられます。



【将来の松山こうなったらいいな！】

・成長に必要な人材を確保していくため、次の5つの取組アイデアをまとめました。

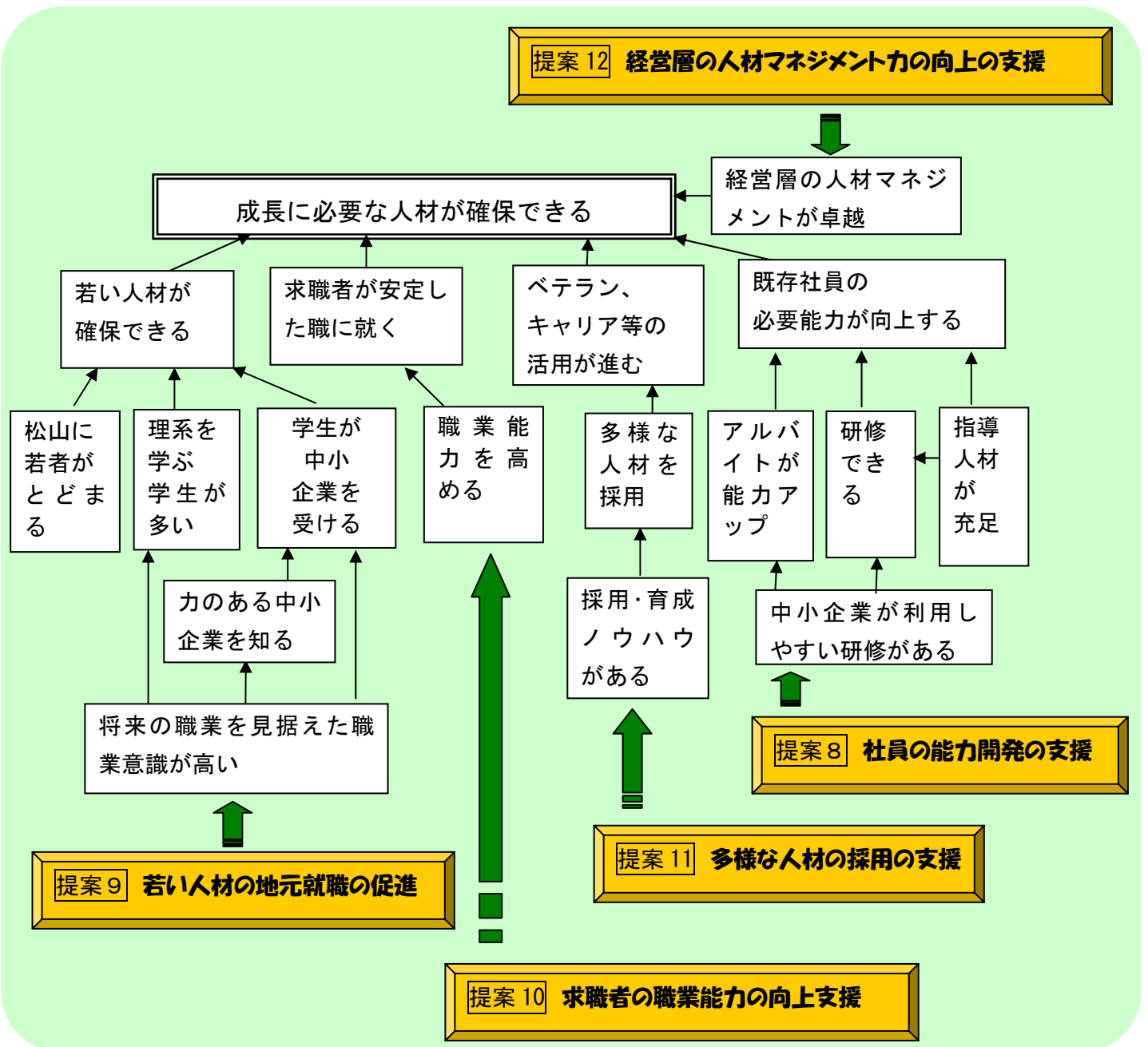
提案8 社員の能力開発の支援

提案11 多様な人材の採用の支援

提案9 若い人材の地元就職の促進

提案12 経営層の人材マネジメント力の向上の支援

提案10 求職者の職業能力の向上支援



提案8 社員の能力開発の支援

| | |
|---|--|
| <p>目的</p> | <p>愛媛県内の中小企業の約8割が赤字となっており、厳しい競争のもと、経営体質を強化していくためには人材育成が不可欠である。しかし、中小・零細企業は、時間やお金の面で人材育成に取り組むことが難しい状況にある。</p> <p>そこで、これからの産業を担う若い人材を育成していくため、中小・零細企業の社員が参加しやすい研修や交流の仕組みをつくる。社員は研修等を通じて知識や技術を得るとともに、外の社会とふれることで視野が広がり、さらなる成長につながることを期待される。また、企業経営者においては、自社だけでなく地域の人材育成にも貢献していくことが望まれる。</p> |
| <p>概要</p> | <p>[名称アイデア]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モチベーションUP向上委員会 ・人材力育成事業 <p>[求められる社員能力]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場のニーズを的確にとらえ迅速な対応を行うこと。(事業案→予算化→実施) ・コミュニケーション能力(社員間・お客様(市民)・関係団体等) ・タイムマネジメント能力(遅くまで職場にいるのが良いとは限らない。) <p>※経営者が、社員に求める能力を明確に示すことが重要である。</p> <p>[研修]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修ニーズを把握しリーズナブルな費用で受講できる講座を開催(NPO等) (方法)座学、企業・福祉施設を訪問する実地研修(中小企業の共同実施) (講師)講師ができる人材の「人材バンク」をつくる。 <p>[相談相手]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロールモデル(身近なお手本)の活用(あの先輩のように自分もなりたい。) ・メンター制度(入社2～3年目の社員に社内外の相談相手をつける。) <p>※相談にのる人も成長する。(相互成長)</p> <p>[異業種交流]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマを設定した異業種交流(仲間づくり、人脈づくりにつながる。) <p>※単なる交流、名刺交換に終わらせない工夫が必要</p> <p>(例)主体的に事業に取り組む人材を集めて将来必要な事業を話し合う。</p> <p>[人事評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全社員が納得する人事評価システムの構築(社員も参画) <p>[その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社内でのコミュニケーションの再考(メールだけでなく直接対話も重要) ・社内での人材交流の仕組みが必要(例:農作業を全社員で行うなど) ・資格取得の費用助成、働きながら資格がとれる仕組み(夜間受講、分割払い) ・作業工程の見える化(障がいのある社員も働ける→みんなが働きやすい) |
| <p>役割分担</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体制 | |

提案9 若い人材の地元就職の促進

| | |
|---------------------|--|
| <p>目的</p> | <p>中小企業は、既存の雇用を維持するため、新たな人材をとる余裕が少ない。採用する場合であっても、即戦力となる人材を求めている。</p> <p>社会に人材を送り出す側の大学において、カリキュラムや研究テーマが、このような企業ニーズとあっているかどうかを確認し、大学教育に反映する必要がある。また、形式的な就職テクニックばかりにとらわれている学生もみられるなかで、採用する中小企業と就職する学生の双方にとってよりよい結果が得られるように、大学側と企業側との対話・協議により、より適切な採用活動・就職活動が行われることを目指していく必要がある。</p> |
| <p>概要</p> | <p>[教育内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の人間基礎力を高める。(市民全体で躰、コミュニケーション能力の向上) ・勉強以外の経験も大事(→課外活動(クラブ)や趣味活動を企業・行政が支援) <p>※松山市独自の教育システム(小→中→高→大)をつくる。</p> <p>(例: 高校での資格取得の義務化、大学時の卒業能力の保証)</p> <p>※大学・高校、小中学校の先生と企業との交流(教育界が経済界のニーズを把握)</p> <p>※経済界と教育界の融合(経済団体、まちづくり団体等への大学生の参画交流)</p> <p>※採用後の社員研修の一部をNPOが安価で実施(共同実施)</p> <p>[中小企業と学生との接点づくり]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアと連携して中小企業の情報を発信(昼休み時間のネット配信が効果的) <p>(例) 中小企業の紹介DVDを作成し、図書館などに置く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会社説明会の前に企業と学生が気楽に話せる場をつくる。 <p>(例) 中小企業の経営者が大学で講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リアルな実態を見せる職場見学・職場実習 <p>[採用活動の見直し]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誤った就職活動の情報を是正する。 <p>(例) 大手企業に就職すれば幸せになれる? マニュアルどおりの面接対応を、企業は高く評価する?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の内申等を評価する。(面接だけでなく、普段の学業を評価する。) <p>※就職活動のために、学生が学業をおろそかにしないようにする。 ※大学から企業に学生(求職者)の情報を渡す。</p> |
| <p>役割分担 ・体制</p> | <p>経済界(中小企業)</p> <p>授業・課外活動の支援 情報発信 会社説明会前の交流 採用活動 就職</p> <p>学生の人間基礎力の向上 中小企業と学生との接点 採用活動の見直し</p> <p>若い人材の地元就職の促進</p> <p>教育 企業と連携した授業</p> <p>教育界(小中学校、高校、大学)</p> <p>人材ニーズ</p> |

提案10 求職者の職業能力の向上支援

| | |
|---------------------|---|
| <p>目的</p> | <p>人材が不足している業種があり、時代が求めている人材を育てていくことが必要である。</p> <p>そこで、職業能力の向上に熱心に取り組んでいる求職者をサポートする。</p> |
| <p>概要</p> | <p>①基礎能力の習得（大学、新入社員の間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外では2年程度かけて職業を考えた上で専門性を習得できる大学で学ぶ。 ・新入社員の間基礎スキルを定着させる。 （将来、転職することになっても通用するように、新入社員の間鍛える。） <p>②求職者の就職支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職までの一連の流れの中で目的を明確にした上で、職業訓練をする。 ・人材が不足している職種に人材を供給するために必要な職業訓練を実施する。 ・求職者のモチベーション、やる気を伸ばす。 <ul style="list-style-type: none"> ◎モチベーション ◎リーダーシップ ◎コーチング技法 これらを上手に活用できる人材を育成する。 <p>※非正規社員の経験しかない人も、コーチングなどの研修をうけると、がらっと人が変わり、モチベーションが上がる。人生に希望が持てるようになる。</p> <p>③能力開発の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に自己能力開発に取り組んでいる求職者をサポートする。 ※学びながら生活できるようにすることが必要 ・失業保険対象者の高等技術訓練（自己負担ゼロ）は就職率が低い。基金訓練（生活費支給あり、自己負担ゼロ）は就職率が高い。（看護師資格の人気の高い。） ・30時間程度の研修受講（受講料30万円）への支援の充実（一部助成など） ・能力開発支援制度を周知する。（訓練手当ての月額表示など情報提供で工夫を） <p>④インターンシップの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップを活用して失業者の就職を支援する。2～3社程度で就業経験を積むことで、自分にあった職探しの機会をつくる。企業にとっても、自社にあった人材を採用しやすくなる。 ※インターンシップ参加者の生活費（補助）と人件費を行政が支援する。 |
| <p>役割分担 ・体制</p> | |

提案11 多様な人材の採用の支援

| | |
|---------------------|---|
| <p>目的</p> | <p>人材が不足している業種（農業、在宅介護など）がある。このような業種に関わる資格を取得（ヘルパー、介護福祉士等）することで、非正規社員が正社員として転職できる可能性があり、資格取得などを支援することが考えられる。</p> <p>また、シニア層や障がい者が働ける場を増やしていくことも必要である。</p> <p>なお、シニア層の活用により、若者が働ける場所を失わないように留意する必要がある。</p> |
| <p>概要</p> | <p>①多様な人材の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な人材の強みを活かせる職業領域、ビジネスモデルをつくる。 ・多様な人材を採用する。（例：趣味を大事に採用している企業もある。） ※多様な人材を受け入れる体験機会をつくる。（受け入れてトラブルにならないか、混乱するのではないかと企業は心配している。） ※多様な人材を採用するための採用基準、ノウハウが必要となる。 ・より多くの社員での「業務の分かち合い」を広める。（ワークシェアリング） ・企業間での一時的な人材の異動（レンタル移籍）の仕組みをつくる。 <p>②シニア人材の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リタイア層に、若い世代への技能・技術の継承に協力いただく。 ・人材紹介コールセンターを設置する。（リタイア人材データベースを構築・活用） ・高齢者を雇用した企業に助成する。 <p>③障がい者が働ける場の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの頃から、障がい者との接点（ふれあう機会）を増やす。 ・障がい者が働く際にサポートする人材を育成する。 ※障がい者とともに、障がい者を理解しサポートできる人にペアで働いてもらう。（NPOが雇用） ・障がい者が働きやすい職場環境づくりをすすめる。（＝健常者も働きやすい。） |
| <p>役割分担 ・体制</p> | <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>多様な人材が、それぞれの強みを活かせる職場</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>（例）耕作放棄地対策</p> <p>（耕作放棄地で農産物を生産）</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>（例）タオル製造</p> <p>（障がい者の指先感覚を活用したタオルを生産）</p> </div> </div> <p>多様な人材を活かす採用基準・ノウハウ、就業体験の仕組み、職場環境づくり</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>資格取得</p> <p>非正規社員</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>人材紹介コールセンターが市内外の人材を紹介</p> <p>シニア人材</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>障がい者</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>ペアで就業</p> <p>障がい者と共に働く人材 (NPOが育成)</p> </div> </div> </div> |

提案12 経営層の人材マネジメント力の向上の支援

| | |
|---------------------|---|
| <p>目的</p> | <p>「会社は誰のものか」、「What's マネジメント」という原点を経営者は考えることが必要である。社長一人が引っ張っているのは、次の世代が育たない。会社は浮沈みをのりこえる共同の船であり、社員が生きがいを感じられる場としていくことが必要である。社員を道具・コストとしてみるのではなく、パートナー・資源として捉えることが必要であり、手を抜かず社員に教えることが経営層の責任である。起業魂を伝えるなど、いい人材を育てることが企業の発展につながる。</p> <p>このような考えから、経営層の人材マネジメント力の向上に取り組むことが必要である。</p> |
| <p>概要</p> | <p>[名称アイデア]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア・マネジメント育成事業 <p>[経営層に求められる能力]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次のような能力を高めることが必要である。心理学を学ぶことも必要である。 モチベーション、リーダーシップ、コーチング、コミュニケーション、気づき力 ・これからの経営者は「サーバントリーダー」（支援するリーダー）として、資源を提供し、下から支えるリーダーとなることが必要である。（ぐいぐいと引っ張るリーダーシップではない！！） ・若い社員を批判するのではなく、若い社員と関係をもち、現状を知ることから始める必要がある。これまでのノウハウが通用するとは限らない。今いる社員を知り、活かしていくことが必要である。 ・コンプライアンスに詳しくなることが必要である。 <p>[社員の育成]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社員教育や研修で、社員と経営者が経営理念を共有することが必要である。 ・社員と直接対話する機会をつくる。対話が機能するように、社員の意見や問題意識が経営トップに伝わるような風通しのよい社風づくりも重要である。 ・権限委譲により、思い切って「任せてみること」も社員の成長につながる。 <p>[経営者自身の学び]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異業種の経営層と、経営者どうしが交流できる場を設ける。 ・地域の兄貴的存在として、若い人・学生に熱いメッセージを語りかける。 (他の経営者と若者とのやりとりを横からみることも刺激となる。) |
| <p>役割分担 ・体制</p> | <p>The diagram illustrates the framework for improving HR management skills for the management layer, centered around the concept of 'Servant Leadership'.</p> <ul style="list-style-type: none"> Top Level (Yellow Box): 経営層の人材マネジメント力の向上 (Improvement of HR Management Skills for the Management Layer) ~サーバントリーダーへ~ (Towards Servant Leadership) Bottom Level (White Boxes): <ul style="list-style-type: none"> 自社の社員 (Company Employees) 学生など (Students, etc.) 他の経営者 (Other Managers) Interactions: <ul style="list-style-type: none"> From the top level to '自社の社員': 経営理念 (Management Philosophy), 対話 (Dialogue), 権限委譲 (Delegation of Authority). From '自社の社員' to the top level: 対話 (Dialogue). From the top level to '学生など': 地域の人材育成 (Local HR Development). From '学生など' to the top level: 刺激 (Stimulation). From the top level to '他の経営者': 交流 (Exchange). From '他の経営者' to the top level: 対話 (Dialogue). Between '学生など' and '他の経営者': 対話 (Dialogue). |

参考資料

■第1回意見交換会のまとめ

■参加者名簿

■市民意見交換会(ラウンドテーブル):雇用の促進① A:雇用の受け皿づくり

企業誘致が効果を上げていない

I・T・コルセンター関連の誘致は成果を上げていますが、正社員としての規模は小さい。やはり大手の製造業誘致が必要である

昨年、松山市から東温市へ企業が逃げているが何故か(食品製造関連企業など)? また東温市は国の機関や企業誘致が進んでいるが何故か?

お金の使い方。私の勉強不足かもしれないが、企業誘致後の長期的展望での雇用拡大に対しての費用対効果、求職者支援事業における就職決定の費用対効果という面では、お金(税金)の使い方が非効率な印象を受ける

夢を持ってなくなっている企業が多くなくなってしまっているのではないかと

土着企業(中小)を支える必要がある(誘致よりも)

域内経済循環+外貨獲得

大企業よりも中小企業を重視

長引く景気の低迷による企業の体力低下

企業体力の低下

本業の掘り下げ。新たにマーケットを地元へ拡大し売り上げを伸ばす。そのための人材が必要になります。本業を掘り下げて新しいマーケットをつくる経営者の挑戦力、科学的な経営戦略の構築が求められます。

新技術・サービス開発への取り組み

域内連携による産業の活性化が必要

(松山に限らず)核となる産業が乏しい。他地域に比べ、松山市を含む中予地域には核となるような産業が少なく、長期的な視野で、民と官が協力して将来核となりうる産業を育てていくことが重要である

エリア単位、業界単位など中小が一つになって新たなことに取り組むより、競い合っ共疲弊し合っている地域性がある→雇用どころではなくリストラへ

松山の発展に行政も地場企業も一丸となつて努力すれば、まちが潤い、市民も潤うという考えが不足。共に依存、慣れ合い

経済界にまとまりがない。地域の経済をリードする人が出られない。行政と地域経済が一つとなつて、良い松山をつくらうという意識が希薄だ

産学官の連携が見えてこない

インフラ環境に弱み

インフラ整備(広域交通拠点を結ぶインフラ、鉄道との立体交差など)

交通アクセスがデメリット(企業誘致、観光)

東京から遠い

既存の鉄道輸送では対応できない

東北などと比べ、土地が高い

水問題の解決(企業活動、企業誘致の面から)

雨水利用の促進

中心市街地

道後地域全体のハード整備

夜間移動のインフラ整備、安全確保

中心市街地の衰退

中心部(大街道、銀天街、まつちか、市駅前など)の小売販売額減少

中心商店街の衰退による雇用の減少。郊外型のショッピングセンターやホームセンターの増え

出店が相次ぎ、中心部の商業が衰退傾向にある。松山市は製造業などの2次産業が相対的に弱い中で、商業分野の重要性は高い

四国一の人口で商業地でもあるが、県外大手チェーン店、スーパーが郊外に進出し地場商店が廃業するなど、企業数が減少しているのではないかと

若者が働きたいとするとファッションの職場がない

→渋谷109、ブランドショップほか

国際化支援

企業の国際化への支援

販路拡大

国際取引への取り組み

県外(海外も含め)に積極的に進出を図る。そのためには人材の先行投資が必要になります。本社が松山にある限り、お金は県外から松山に集中し地域経済を潤します

観光

滞在型観光都市、国際観光都市の確立(交流人口含む)

和洋ファッション創造もつくりで観光客誘致。将来県文はファッションショーの殿堂へ。中央商店街独自にデザインナー、着付師、モデルを養成配置する。地元出身モデルと友近さんや藤岡さんにも参加要請する

観光とイベント。道後に古代中世の伊予歴史物語博物館、二城郡と坂の上の雲一体のイベント創案、城山公園の催事・博覧会開催

道後温泉に泊まらない

「坂の上の雲」効果の終わり

市民が松山の歴史や文化を知らない

愚陀佛庵

観光以外の産業で雇用を生む必要がある

1次産業

観光に関わる仕事はボランティアが多く、雇用につながらにくい

観光で松山を訪れた人は地味なものを食べたいと思う

⇒1次産業と結びつき

多言語化が進んでいない

情報発信

YouTube や海外コミュニケーションの活用

海外との交流増加

松山から中国に行く+中国から松山に来てもらう など

起業支援

起業支援不足。起業の支援が少
ない、起業のリスクを起業家の
みが背負う仕組みを変えられ
ないだろうか

産業構造

産業構造が3次産業に依存し
た形となっている。産業別の市
内総生産が3次産業に偏って
おり、相対的に1次産業・2次
産業が弱い。安定的な雇用の受
け皿となりうる製造業の比率
が低い

業種転換企業の支援

グローバル化が進んだ中での
産業構造の変化

一昔前に繁栄していた大手製造業の、円高等を原因とする海外展開
による事業の縮小

製造業の振興が必要

機械産業の復活振興。農機、ボ
イラー、造船、繊維機械、食品
機械、福祉機器など全ての機械
の部品や装置の補償部品製造
加工センターづくり。中高年齢
層のボランティア的参加意欲、
集談会スタッフを募集する。基
礎工学含む

工業、化学などの企業が少ない

ものづくり産業の育成

1次産業⇒6次産業化

1次産業は人手不足
1次、2次から始めて6次産業
につなげる
希少価値のあるものをつくっ
ていく
ブランドの一本化（1次産業、
道後、田舎というイメージ）

現状は生活が成り
立たない

雇用の課題

大手の企業がまだまだ少なく、
大量雇用は難しい
松山の雇用の問題は、学生に
対する企業のアピール不足(知
名度)
松山の雇用の問題は、雇用受
入れ体制の整備不足
→ハードルが高い割に、就業に
そこまでのスキルを求められ
ない
松山の雇用の問題は、新規採
用の枠が狭いこと
→松山は新規採用の枠が少な
いため、同じ悩みを打ち明け
ることのできる同期が少ない
就職後、早期に退職する若年者
が少なくないが、そうした早期
転職者に対して新卒待遇とす
るなどの配慮をする企業は稀
で、有能な人材の県外流出の一
因となっているように感じる
雇用するためには仕事が増え
ることが先決
特定の職種にしか求人がない
NPOで雇用をつくる(独立し
て採算が取れるように)
障がい者を雇う仕組み

■ 市民意見交換会(ラウンドテーブル):雇用の促進① B:人材づくりと活用

職種

正規雇用・非正規雇用

正社員になりたい

正規・非正規の差(条件と意識)

どうしてもアルバイトが多い

Jobカフェ(愛 work)のスタッフがアルバイトであること(仕事の紹介をする側がアルバイトなのは少し不思議に思える。ハローワークについては情報なし)

業種ごとの偏在

例えば新聞報道などで目にする医療従事者の偏在などについては、当事者たる病院の自努力では及ばない場合などにも公的支援が必要となると思う

新しい産業への人材のシフト(教育、訓練)が上手くいっていない

サービス業が大半を占めており、今後は農林水産業者が会社化し生産性を上げて収益を上げる事ができるようにするアドバイザ的存在が必要

企業にはばかり目を向けるのではなく、NPOの内容ももっと知らせる工夫を!

観光など、松山のポイントとなる場所での仕事があるランテアに依存しているところ(違っていたらすみません)

企業の採用動向

企業の採用スタンス
求める基準が高すぎたり、受入体制が整っていないかかったり、採用できなかつたり離職にながっている

管理職・経営層の意識改革

企業の採用条件がほぼ新卒のみを対象としており、積極的な中途採用がなされていない

事務職への位置づけ、専門性が(雇用される側も)低い

企業の労務構成の関係から、「新卒よりもキャリア採用」が増えているのではないかと「人材ニーズも、普通科より手に職をもった施設系」を望んでいるのでは?

多様な人材の活用

多様な人材の活用(障がい者、疾病、女性など)

技術シルバー層の活用

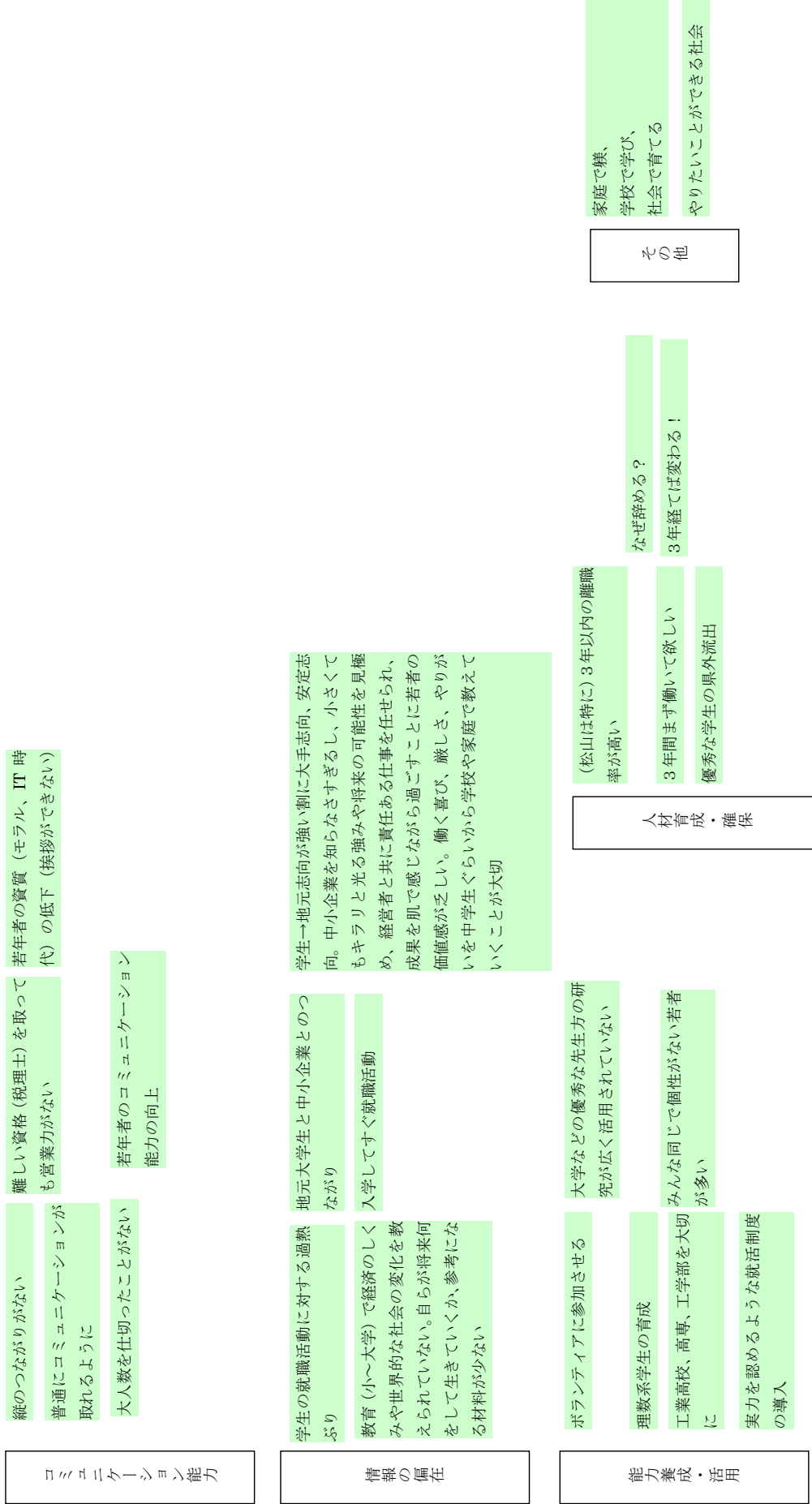
シルバー技術者(技能工)を高める

その他

このままでは雇用を守る中小企業がつぶれてしまう

ソフトよりハード、サービスより物を優先し、職工・職人を重視する

若者・学生



人事制度

人材育成の現状

企業が人材を育成できない
即戦力を求めている企業が
多く、若者が育つ環境が少
ない

日本がこれまで有した人事
制度を無視した、能力給のみに
頼る新しい人事制度
額を割って話す機会がない

長時間労働の恒常化
新しい人事考課

アルバイトで補っている労働
力が多すぎ点。財務上仕方がない
ことなかもしれないが、正社
員を1人入れてアルバイトを
3人除けるといった措置の
方が、正社員の雇用を増や
すという面で良いのではない
だろうか

終身雇用が当然ではなくな
り、労働力の流動化が進んだ
状況の中で、転職先の選定基
準は有利な雇用条件であり、
弾力的な形態が進んでいる都
市への人材の集中化および地
方からの人材流出が生じる

暗いイメージの
コネ社会を打
破

人材育成の方向性

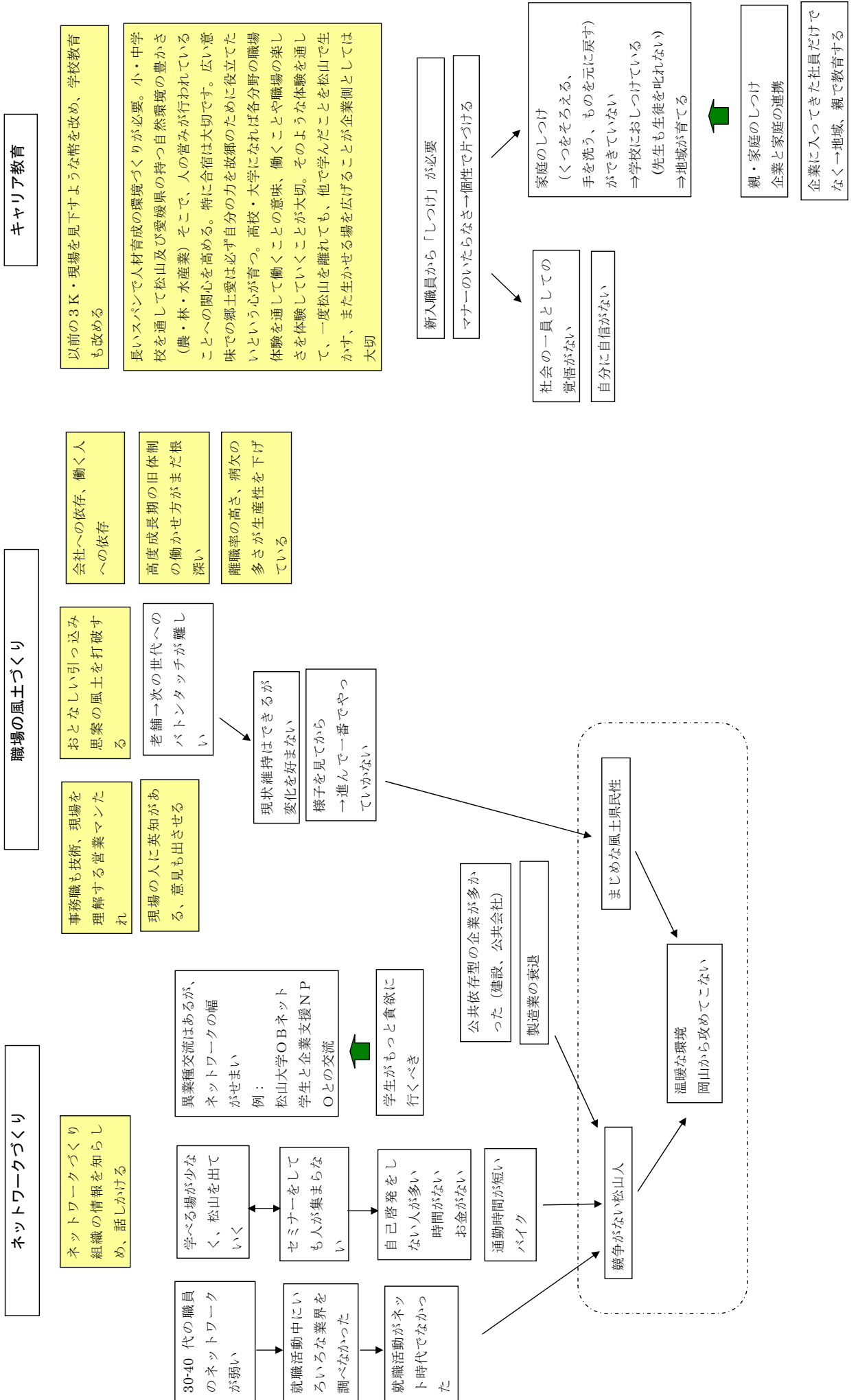
若者の現状に合わせたマネ
ジメント
この社長と仕事をしたい
という人間力
人を生かす、人の足を引
っぱらない

中間層のリーダーシップ
サブバントリダー(支援す
るリーダー)を育てる
企業の育成に力を入れる
(人材の前に)
→研修費用の補助

マッチング

| | | | |
|------------------|--|--|---|
| <p>情報の不足</p> | <p>(松山市に限らず) 雇用のミスマッチング 就職希望者に対し、十分な情報提供がで きる体制をつくることが重要であると考 える。知名度が高くても技術力のある優 良な中小企業は多いが、就職希望者(特 に新卒学生)にそれらの情報が十分に伝 わっていないことが多いのではないかと 思われる</p> | <p>(松山市に限らず全般的に) 雇 用主と求職者の効果的なマッ チングができているか。就職希 望者の能力を最大限活用でき る企業を紹介できるような仕 組み(ネットワーク)が構築さ れているか</p> | <p>業種・職種を知る機会が少ない 本日は日本一の企業がある</p> |
| <p>ニーズのミスマッチ</p> | <p>企業が求めている人材と、求職 者が求めている職場(職種)と がマッチングしていないよう に思う 雇用のミスマッチというが、学 生に我慢が足りなさすぎる</p> | <p>市内には人手不足、人材難の企業が少なくない。ところが、企業が求める人 材と県内で求職活動をしている人材がマッチングしていない。それを解決す るためには、企業が採用ハードルを下げて育てるか、人材のレベルを上げる しかない。ところが、企業がハードルを下げられないのはビジネスのスピー ドが速くゆっくり育てている暇がないこと、自社の人材では今後の経営が困 難になっているから。つまり就職や採用の支援も重要であるが、企業内人材 のレベルアップ、求職者の本質的レベルアップを図る必要がある</p> | <p>第一次産業の求人を増やして 欲しい(第三次以外でも多くの 求人が欲しい)</p> |
| <p>対応策</p> | <p>地元の中小企業をもっと大学 に入っていく 授業で企業の人を呼ぶ 職場体験の受け皿を</p> | | |

■市民意見交換会(ラウンドテーブル):雇用の促進① C:その他の雇用促進策



ひとり親の就労

ひとり親就労支援（手法はニーズに合っているのか、特別視していないか？）

女性の就労

子を持つ女性の就労率が低い。女性の就労機会が増えれば、世帯収入の増加につながり、消費の拡大・経済の活性化が期待できる。経済が活性化すれば、ひいては雇用の拡大につながる

高齢者の活用

中高年齢層から闘う姿勢の回復ダイナミズムを示す

消費喚起

高齢者の貯蓄がお金の循環を止めており、企業の事業成長をとめ、雇用の枠を減らしている

賃金が低いことが、消費の低迷を生んでいる

全国に比べ低い賃金水準

賃金・非正規

アルバイトの募集欄で、「研修期間の間は低時給」の基準が企業ごとに曖昧である点。勤務先によっては一切昇給が無い場合もある。条例でもいっているので、研修期間は最長何ヶ月間か、何時間勤務が策定してほしい

企業によってアルバイト、正社員共々が有給を取りづらい所がある。労働組合の脆弱さの結果かもしれないが、上記のような福利厚生が十分に受けられない人もいいる点

雇う側の意識として賃金コストをいかに低く抑えて利益につなげるかという発想がないか。働く人の意欲を高めるための総合的な工夫、もちろん賃金も大切だが、働くこと＝人へのお役立ち＝自分の存在感の高まり＝誇りへとつながるもの。一人ひとりが創意工夫を發揮した時、その生み出す価値は予想を超えることもある。人材こそ価値を生み出す源泉との発想が雇用側にもつとも必要ではないか。また、誰もが人材となりうる可能性を持っている

企業が儲かっていない
→仕事を取り合う

松山はサービス業が多く、生活が不安定な中高年女性が多い（生活保護になりやすい）

働く意欲が減退

厚労省の基金訓練
月10万円 or 12万円
→経験のない所
講習を開いている
(大丈夫?)

水商売の人が多い (2000店)
パチンコ店、飲食店が多い

資格を取っても働かない
(失業保険のほうが高い)
失業保険がもらえるから働かない
失業保険 > 非正規給与
(最初は非正規から、3カ月の我慢)

手続き支援制度

公的機関については、申し出をした場合のみサービスが受けられるように感じる。本当に支援が必要なたちへの働きかけを行う必要があると考える

助成金や補助金等の支援制度の周知が図られていないように感じる

国や県の制度もあり、これらを整理し、理解を容易にする工夫することで利用の促進を図れると考える

助成制度等が知られていない

サービスが複雑でわかりにくい、数も多い

サービスを利用するとどんなキャリアア、仕事につながるのかわかりにくい

ホームページとパンフレットが揃っていない

松山市としてのサービスのつくり込みが弱い

その他

過去の首長権力行使すると失敗、歴代松山市長は歴史と近代をよく調和させ比較的上出来

行政が民間を見下すような弊を除去する

国の出先の松山回帰

役人から公僕に徹し、松山を地方都市の代表へ

■市民意見交換会（ラウンドテーブル）：雇用の促進 参加者名簿

（敬称略，50音順）

| No. | 氏名 | 所属・役職等 |
|-----|--------|----------------------------------|
| 1 | 秋川 保親 | 愛媛県中小企業家同友会経営相談室 室長 |
| 2 | 奥村 正俊 | 株式会社愛媛銀行松山市役所支店 支店長 |
| 3 | 片山 博 | 北条商業サービス協同組合 理事長 |
| 4 | 川崎 壽洋 | 特定非営利活動法人ふうしすてむ 理事長 |
| 5 | 小林 佳貴 | 公 募 |
| 6 | 重信 匡啓 | 公 募 |
| 7 | 高市 順 | 公 募 |
| 8 | 高橋 徹朗 | 公 募 |
| 9 | 高原 浩文 | 愛媛信用金庫営業統括部 部長 |
| 10 | 辻田 精光 | 松山地域労働者福祉協議会 会長 |
| 11 | 長野 恒裕 | 株式会社伊予銀行松山市役所支店 支店長 |
| 12 | 野本 千壽子 | 公 募 |
| 13 | 堀田 真奈 | 特定非営利活動法人ワークライフ・コラボ 代表理事 |
| 14 | 本田 峻一 | 公 募 |
| 15 | 牧野 真雄 | 公 募 |
| 16 | 三好 博 | 松山商工会議所地域振興部地域振興課 課長 |
| 17 | 矢野 元昭 | 公 募 |
| 18 | 山本 恒久 | 愛媛経済同友会 幹事 愛媛経済同友会会員交流委員会 委員長 |
| 19 | 山本 遼 | 公 募 |
| 20 | 芳野 裕士 | 公 募 |

市民意見交換会（ラウンドテーブル）

テーマ3：災害に強いまちづくり

1. 開催概要

■検討テーマ

・「テーマ3：災害に強いまちづくり」では、大規模地震対策などについて検討しました。

■取り上げた課題と提案

・3回の意見交換会を通じて、様々な問題提起がありました。その中で、次の問題に対する取組アイデアについて意見を出し合い、8つの提案をまとめました。

| 松山のここが問題！ | 松山を変えるアイデア！ | 頁 |
|--------------------|--------------------------|----|
| (1)大規模地震への備えに不安 | | |
| ①各家庭の災害への備えが弱い | 提案1 防災マップを活用した防災知識・情報の普及 | 67 |
| ②家具固定の実施率が低い | 提案2 家具固定の促進 | 68 |
| ③避難訓練の参加者が少ない | 提案3 避難訓練の実施 | 69 |
| (2)大規模地震の発生時の対応に不安 | | |
| ①自分や家族の身を守れるか不安 | 提案4 初動/ウハウの普及 | 73 |
| ②学校や職場等の初動が不安 | 提案5 学校や職場等での初動体制の確保 | 74 |
| ③外出時に避難先が分からず不安 | 提案6 外出場所での避難場所の表示 | 77 |
| ④家族の安否が確認できるか不安 | 提案7 災害用伝言ダイヤルの番号の周知 | 77 |
| ⑤避難所が適切に運営されるか不安 | 提案8 避難所の開設訓練 | 78 |

■開催概要

第1回 「松山のここが問題！」

趣旨説明、参加者紹介、テーマと進め方の説明の後、危機管理担当部と井戸善昭さん（松山市消防団）からオープニングトークをしていただきました。

その後、「松山の地震対策のここが心配！」をテーマに、次の3つのテーブルを巡り、存分に語っていただきました。

- A：大規模地震に備えた事前準備
- B：大規模地震発生時の対応
- C：東日本大震災から学んだこと

（日時：11月10日（木）19:00～21:00、場所：松山市保健所・消防合同庁舎 6階大会議室）



第2回 「松山をこんなまちにしたい！」

第1回のふりかえりの後、次の2つの検討グループに分かれて、「こんな地震への備えのあるまちにしたい！」をテーマに、まちづくりの方向性（将来、松山がこうなったらいいな）や取組アイデアを話し合いました。

- 1班：大規模地震に備えた事前準備
- 2班：大規模地震発生時の対応

（日時：11月21日（月）19:00～21:00、場所：松山市保健所・消防合同庁舎 6階大会議室）



第3回 「松山を変えるアイデア！」

第2回のふりかえりの後、第2回と同じ検討グループに分かれて、「松山を、もっと地震への備えのあるまちに変えるアイデア！」「ここから松山を変えよう！」をテーマに取組アイデアを話し合いました。

意見交換会の閉会にあたって、参加者の皆さんから感想・今後の抱負などを一言ずつお話しいただきました。

- 1班：大規模地震に備えた事前準備
- 2班：大規模地震発生時の対応

（日時：12月5日（月）19:00～21:00、場所：松山市保健所・消防合同庁舎 6階大会議室）



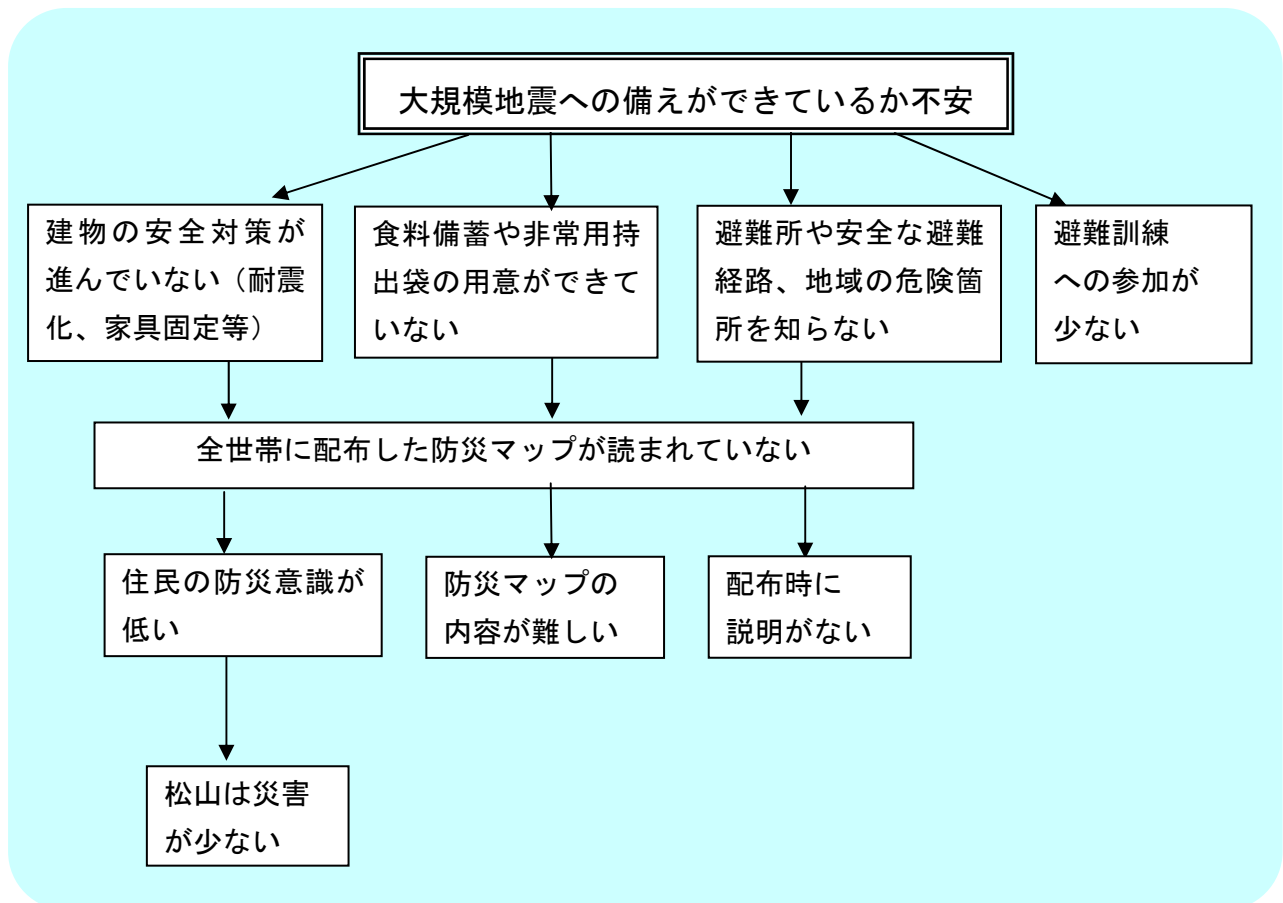
2. 松山の問題と「松山を変えるアイデア（提案）」

(1) 大規模地震への備えに不安

- ①各家庭の災害への備えが弱い、②家具固定の実施率が低い、③避難訓練の参加者が少ない

【松山のここが問題！】

- ・「災害に強いまちづくり」に向け不安に感じることで、「大規模地震への備えができていない」ことがあげられます。
- ・その要因として、全世帯に配布した防災マップがあまり読まれていないため、「様々な防災対策が家庭でされていない」ということがあげられます。
- ・また、「避難訓練への参加者が少ない」ことも要因として考えられます。



【将来の松山こうなったらいいな！】

・大規模地震に備えた事前準備を進めるため、次の3つの取組アイデアをまとめました。

提案1 防災マップを活用した防災知識・情報の普及

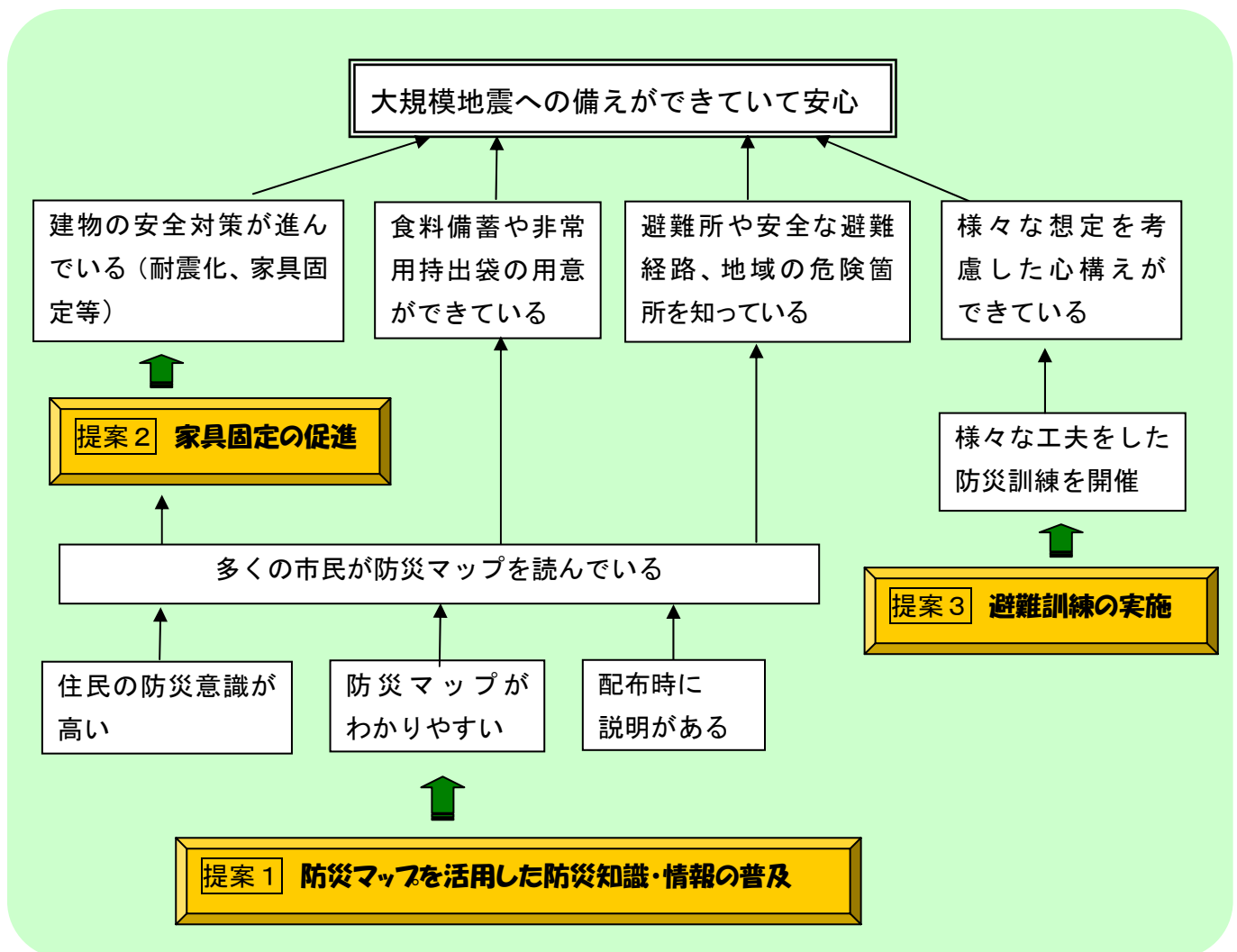
防災マップの内容をわかりやすく伝える「防災マップ勉強会」を開きます。

提案2 家具固定の促進

ボランティア等の協力を得て、家具固定の実施率を上げます。

提案3 避難訓練の実施

多くの人に参加いただけるように工夫した避難訓練を実施します。



提案1 防災マップを活用した防災知識・情報の普及

| | |
|---------------------|--|
| <p>目的</p> | <p>松山市では、家庭における防災対策の実施率が低い状況にある。そのため、非常用持出袋の中身から災害時の避難経路まで役立つ情報を満載した「防災マップ」が作成され、全戸に配布されている。</p> <p>しかしながら、防災マップを読んでいない人や、防災マップの存在を知らない人もみられる。このような人たちに、防災マップの存在を知ってもらい、内容にも興味をもってもらえるような取り組みを進める。子どもからお年寄りまでが、防災の取り組みに積極的に参加し、自ら災害に備えるとともに、地域防災活動の担い手としての意識をもつことをめざす。</p> |
| <p>概要</p> | <p>①「防災マップ勉強会」の開催</p> <p>[名称アイデア]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使いこなそう！あなたの暮らしとふる里を守る防災マップ <p>[開催場所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館・分館、学校、職場、介護施設、障がい者福祉施設、商業施設等 <p>[内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災マップの内容の紹介（食料備蓄、持ち出し袋、避難経路・避難所等） ※外出等に困難を伴う人（災害時要援護者）には個別に訪問して説明する。 ・「わがまち防災マップ」の作成 <ul style="list-style-type: none"> －防災マップをベースに、小地域（町内会単位程度）でマップを作成するワークを実施する。避難経路や避難所の確認のほか、「あそこのブロック塀が崩れそう」、「この家の人は避難に手助けがいりそう」など、地域に密着した情報を落とし込むことで、地域で共有する。 <p>②防災マップのPR</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所や商業施設など、人が集まるところで開催されるイベントを通じ、防災マップの内容をクイズ形式等で分かりやすく、楽しく紹介する。 <p>③多様な手段での防災マップ掲載情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GISデータで防災マップを提供（携帯電話やiPad、カーナビ、地デジなどを通じて、知りたい場所の情報をすぐに調べられるようにする。） ・市のホームページでの「マイ防災マップ作成機能」の提供（市のホームページ上で自分が見てわかりやすいマップ（文字の大きさや地域の範囲など）や、自分が欲しい情報を組み合わせたマップを作成できるようにする。） <p>④防災マップ掲載情報の追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地盤の状態がわかるマップを作成し、「安全な場所に家が建っているかどうか」を確認できるようにする。 |
| <p>役割分担 ・体制</p> | |

提案2 家具固定の促進

| | |
|------------------------|--|
| <p>目的</p> | <p>松山市では家具固定の実施率が低い。家具固定をしておく、大きな地震の時に家具が倒れにくくなり、被害を少なくすることができる。</p> <p>そこで、家庭内における住民の安全を守るため、家具固定の促進に取り組む。</p> |
| <p>概要</p> | <p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐震性が低いと思われる住宅に家具固定器具のサンプルを無料配布 ・独居高齢者等の世帯における家具固定状況の確認と設置支援 <ul style="list-style-type: none"> 家具固定状況の確認 → 民生委員、要援護者協力員、ケアマネジャー、女性消防団、女性自主防災クラブ等 器具の取り付け支援 → ボランティア、ホームセンターの店員等 ・家具固定器具の購入助成（自主防災組織でとりまとめ） |
| <p>役割分担</p> <p>・体制</p> | <p style="text-align: center;">家具固定の実施世帯の増加</p> <p>設置状況の確認 (高齢独居世帯等)</p> <p>民生委員 要援護者協力員 ケアマネジャー 女性消防団 女性自主防災クラブ等</p> <p>行政</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐震性が低い住宅への器具の無料配布 ・家具固定器具の購入助成 <p>家具固定器具の取り付け支援</p> <p>ボランティア ホームセンターの店員等</p> |

提案3 避難訓練の実施

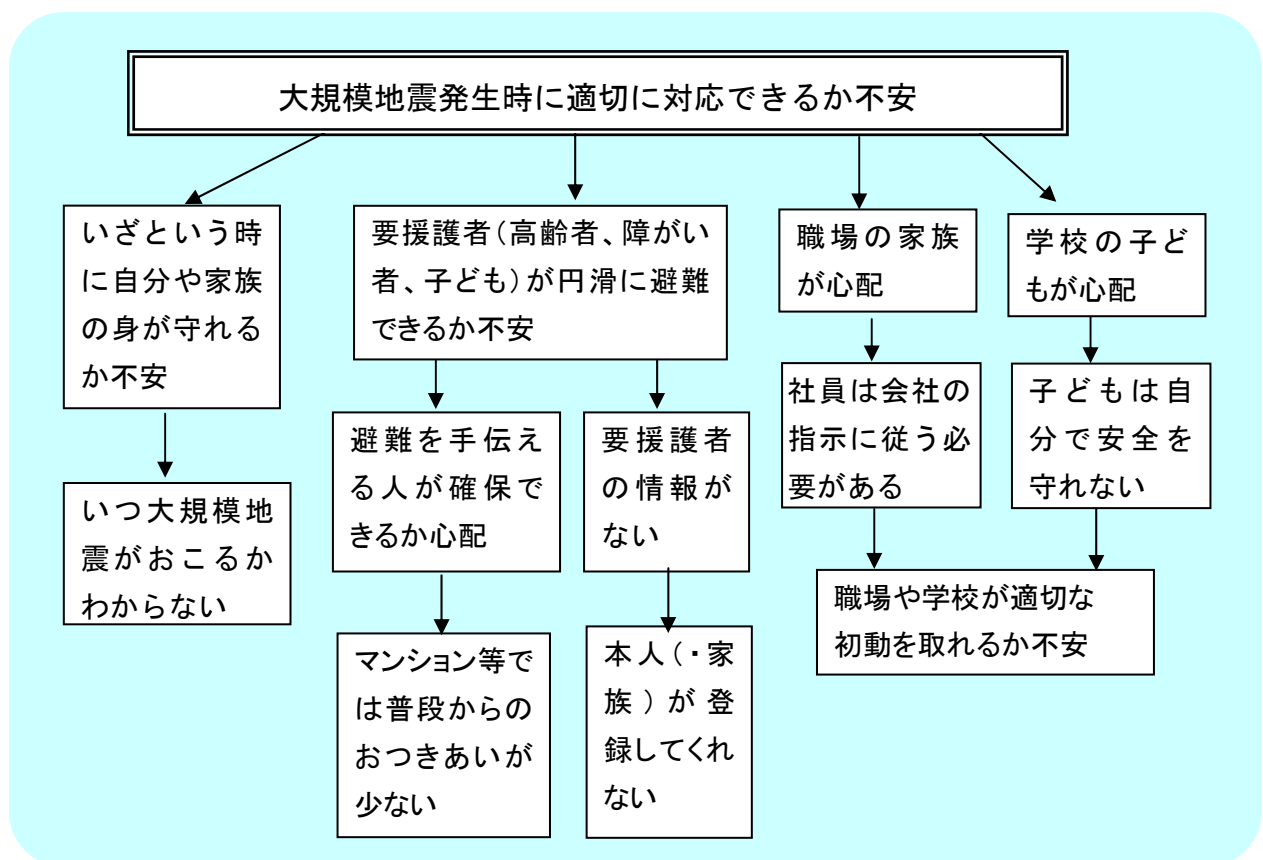
| | |
|---------------------|--|
| <p>目的</p> | <p>松山市では、自主防災組織が全地域で設立されているが、自主防災組織により避難訓練のレベルが様々である。マンションの避難訓練での参加者も少ない。</p> <p>大規模な災害時には、公的な支援が来ないと想定して地域で助け合えるようにする必要がある。大規模な災害時に安否確認、情報収集、避難所の立ち上げを行うのは自主防災組織であり、消防団は救出作業にかかりきりになる。</p> <p>地域の自主防災組織が中心となった避難訓練を積み重ね、訓練の数を一定こなしておくことが重要である。(様々な訓練の経験者を地域で増やしておく。)</p> |
| <p>概要</p> | <p>[名称アイデア]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたと私の命を守る避難訓練 ・安全、安心な町づくりに参加しよう ・訓練強化で安心な町内づくり ・みんな一緒に生きのびろ！～訓練～ ・子供、お年寄りを守る防災訓練 ・生存訓練 <p>[実施時期(例)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平日の昼間、土日の昼間、夜間など様々な時期に実施しておくといよい。 ・地域の大きなイベント(小学校で実施)とあわせて実施する。 <p>※年間の計画を立て、年間に複数回実施できるとよい。</p> <p>※高齢者サロンで防災クイズ、カルタをする。(元気な高齢者が集うので)</p> <p>[訓練を実施する際の工夫(例)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催案内を各戸配布する。(回覧にしない。)学校を通じてチラシを配布する。 ・自治会会長と防災士、自主防災組織、消防団が連携して企画・開催する。 ・特別養護老人ホームは学生と一緒に避難する。(避難用のリアカーが必要) ・起震車による地震体験(子どもたちがあつまる。) ・炊き出し訓練(参加者にふるまう。) ・訓練参加者に景品(防災グッズ)を提供する。 ・訓練を楽しみながら行える工夫をする。 <p>(例)「担架レース」(運び方を消防士等のプロに習ってから実施)</p> |
| <p>役割分担 ・体制</p> | |

(2) 大規模地震の発生時の対応に不安

①自分や家族の身を守れるか不安、②学校や職場等の初動が不安

【松山のここが問題！】

- ・「災害に強いまちづくり」に向け不安に感じることで、「大規模地震発生時に適切に対応できるか」があげられます。
- ・その要因として、「いつどのような地震が起こるかがわからない」といったことや、身の回りの「要援護者を適切に避難させられるか」といったことがあげられます。
- ・また、学校や職場などにばらばらとなっている家族が、それぞれ「適切な初動をとれているかどうか」も要因として考えられます。



【将来の松山こうなったらいいな！】

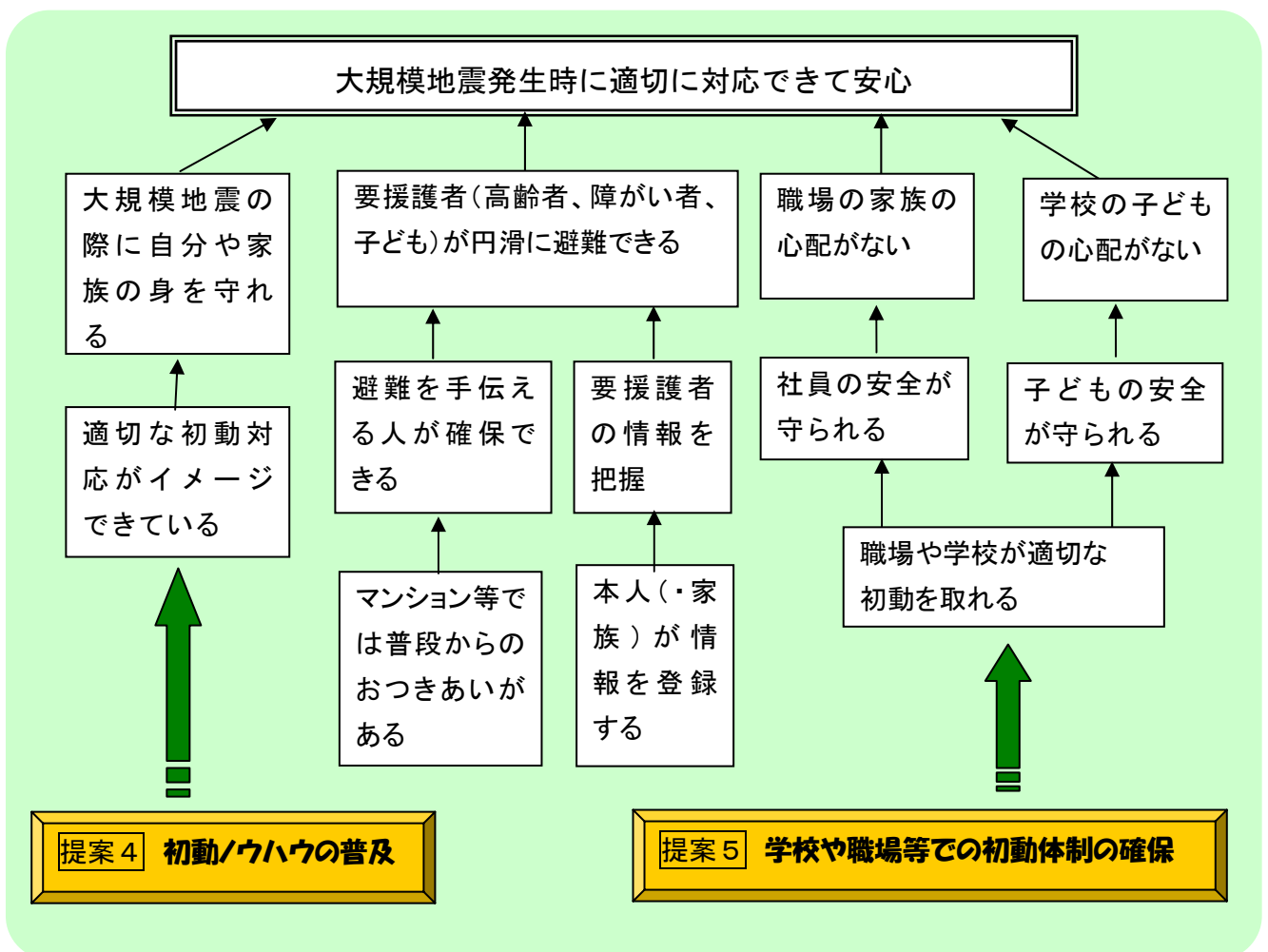
・大規模地震発生時に適切に対応できるようにするため、次の2つの取組アイデアをまとめました。

提案4 初動/ウハウの普及

いざという時の初動ノウハウについて防災講座を開きます。

提案5 学校や職場等での初動体制の確保

学校や病院、福祉施設、企業等における適切な初動対応を普及します。



提案4 初動/ウハウの普及

| | |
|---------------------|---|
| <p>目的</p> | <p>大規模な地震はいつ起こるか分からない。大規模な地震発生時の初期避難では「自分と家族をいかに守るか」が大事である。まず、自分を守り、家族を守り、近所で助け合う。</p> <p>地震によって逃げる場所は違う。安全な場所は違う。地震が発生した時間帯によってもとるべき行動は異なる。地震が「朝に起こった場合」、「昼に起こった場合」、「夜に起こった場合」など、様々なケースに対応した行動を予め考えておくことが必要である。訓練した通りになるとは限らないが、「訓練をしていないよりもましである」と考え、訓練しておくことが必要である。</p> |
| <p>概要</p> | <p>[名称アイデア]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひなん大作戦 ・いのち守ろう会 ・100歳まで生きる方法 <p>[防災講座の開催]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、職場（企業、工場など）、福祉施設などで強制的に防災教育の場をつくる。そして、学んだことを家庭に持ち帰ってもらう。 ・独居の人については、地域や民生委員がサポートすることが考えられる。 <p>[講座の内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、危機感をもってもらう。 <ul style="list-style-type: none"> （例）震災を体験した人、ボランティアに行った人の話をきく。 映像をみる。（津波の映像など） ※建物の倒壊被害の映像もあるとよい。 ・その後、初動（身の守り方、判断の仕方）などについて教える。また、正しい情報を伝える。（「50cmの津波は安全」との誤解がみられる。） <ul style="list-style-type: none"> （例）クロスロードゲーム（災害時の意思決定を学ぶゲーム） ※ゲームを進行する指導者が必要（学校の先生など） |
| <p>役割分担 ・体制</p> | <div style="text-align: center;"> <pre> graph TD A[震災体験者 震災ボランティア] -- 体験談 --> B[初動ノウハウ普及のための防災講座の開催] C[講師（専門家）] -- 初動ノウハウ --> B B -- "学んだことを 家族に伝える" --> D[各家庭] </pre> </div> <p style="text-align: center;">初動ノウハウ普及のための防災講座の開催</p> <p>[開催場所] 学校、職場（企業、工場など）、福祉施設</p> <p>[内 容] ①危機感をもってもらう ②初動を教える（身の守り方、判断の仕方）</p> <p style="text-align: right;">学んだことを 家族に伝える</p> <p style="text-align: right;">各家庭</p> |

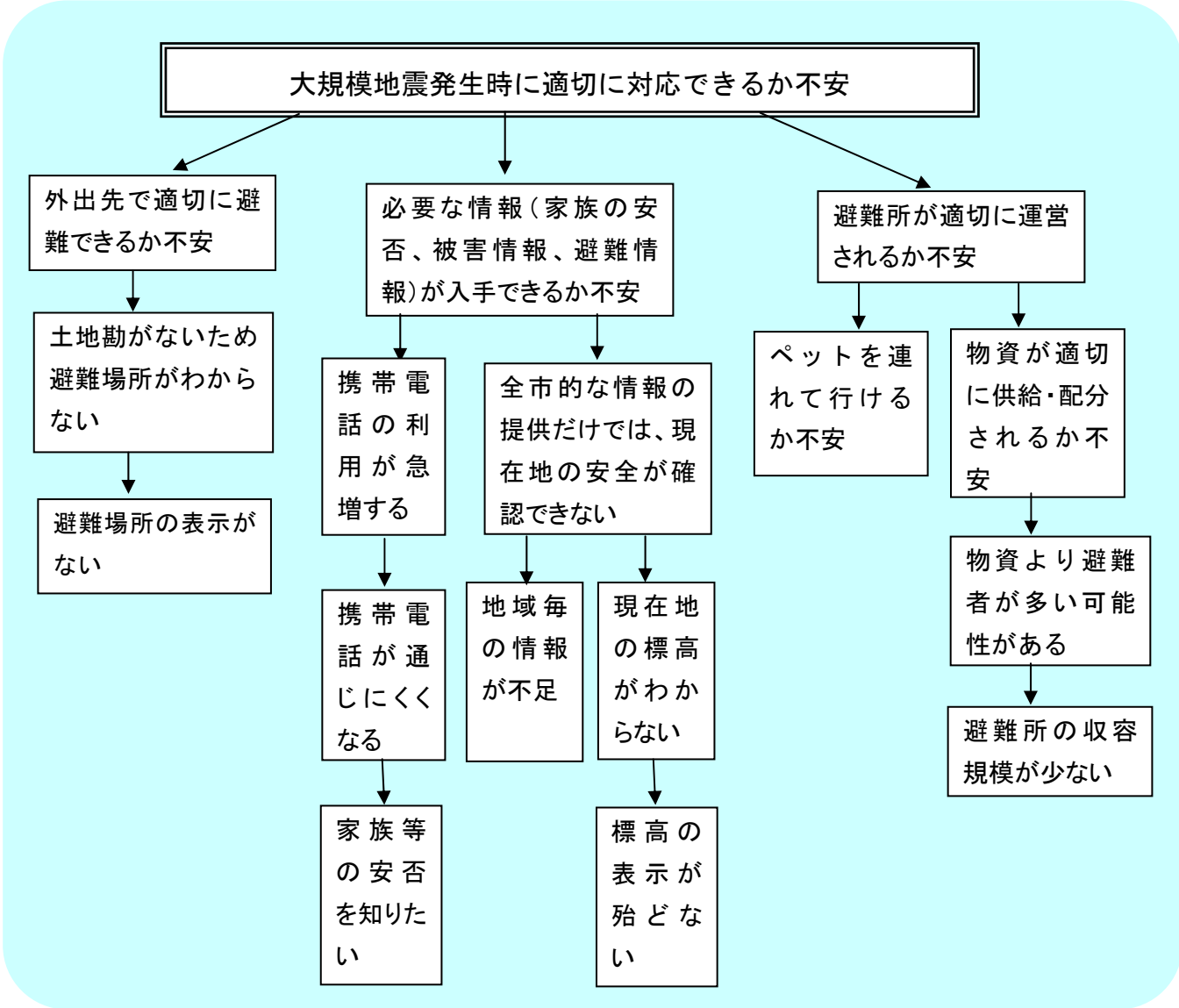
提案5 学校や職場等での初動体制の確保

| | |
|---------------------|---|
| <p>目的</p> | <p>大規模地震はいつ発生するかわからない。学校や病院、福祉施設、企業（オフィス、工場等）等において適切な初動をとることが求められる。</p> <p>多くの施設には、防災担当者が設置されていると思われるが、組織全体として対応できる状況になっているとは限らない。また、様々なリスクについて十分想定した対策がとられているとは限らず、個人がリスクをとることで対応しているような事例もみられる。</p> <p>大規模地震発生時に適切な初動をとれるように、関係機関の連携により実践的な対策を講じるとともに、訓練をきっちりと積み重ねておくことが必要である。</p> |
| <p>概要</p> | <p>①学校における取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校低学年の頃から防災教育をすることで防災意識が高まる。消防などの協力を得て出前教室を行う。 ・子どもに防災教育をする前に、教員の防災教育から取り組むことが必要 ・子どもたちには、一斉行動（さっと並ぶ）を教え込むとともに、「こんな時はどうするか」と、自主的にとっさの判断ができるような学びを教える。 ・避難所となっていない学校にも食料を備蓄しておく。 <p>②病院、福祉施設における取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な震災における教訓を取り入れる。 ・福祉施設（入所施設）では、家族・知人などの連絡先（メールアドレス）を把握しておく。また、非常時の入所者の受け渡しの方法（迎えに来るのを待つ、送り届ける）を予め決めておく。非常時に、生命に関わるような常備薬を確保する方法についても家族と話し合っておく。 <p>③企業における取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理部署はマニュアルをもっているが、全ての部署で情報が共有されているとは限らない。最新の防災対策についても担当者しか持ち合わせていない可能性がある。定期的な消防訓練の時にあわせて、土嚢づくり、防水板の設置などのメニューに順番に取り組むことが考えられる。 <p>④各施設共通の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、病院、福祉施設、企業等の立地地域の周辺地域の町内会等と面識をつくり、敷地外に避難する場合の避難場所を把握するとともに、その避難場所への避難訓練をしておくことが必要である。 ・防災担当者を育成することが必要である。 （役割）①安全確保 ②安全確認(安否確認) ③避難誘導 ④情報収集・共有 ・防災担当者には訓練実施の権限を与えることが必要である。 ・防災担当者は消防等と連携するため、専門用語を把握しておく必要がある。 （消防等は専門用語をできるだけ使わない工夫が求められる。） |
| <p>役割分担 ・体制</p> | |

- ③外出時に避難先が分からず不安、④家族の安否が確認できるか不安、⑤避難所が適切に運営されるか不安

【松山のここが問題！】

- ・「災害に強いまちづくり」に向け不安に感じる事として、「大規模地震発生時に適切に対応できるか」があげられます。
- ・その要因としては、「外出先で適切に避難できるか」「必要な情報が入手できるか」といったことがあげられます。
- ・また、多くの方が避難所を経験したことがないなかで、「避難所が適切に運営されるか」ということも要因として考えられます。



【将来の松山こうなったらいいな！】

・大規模地震発生時に適切に対応できるようにするため、次の3つの取組アイデアをまとめました。

提案6 外出場所での避難場所の表示

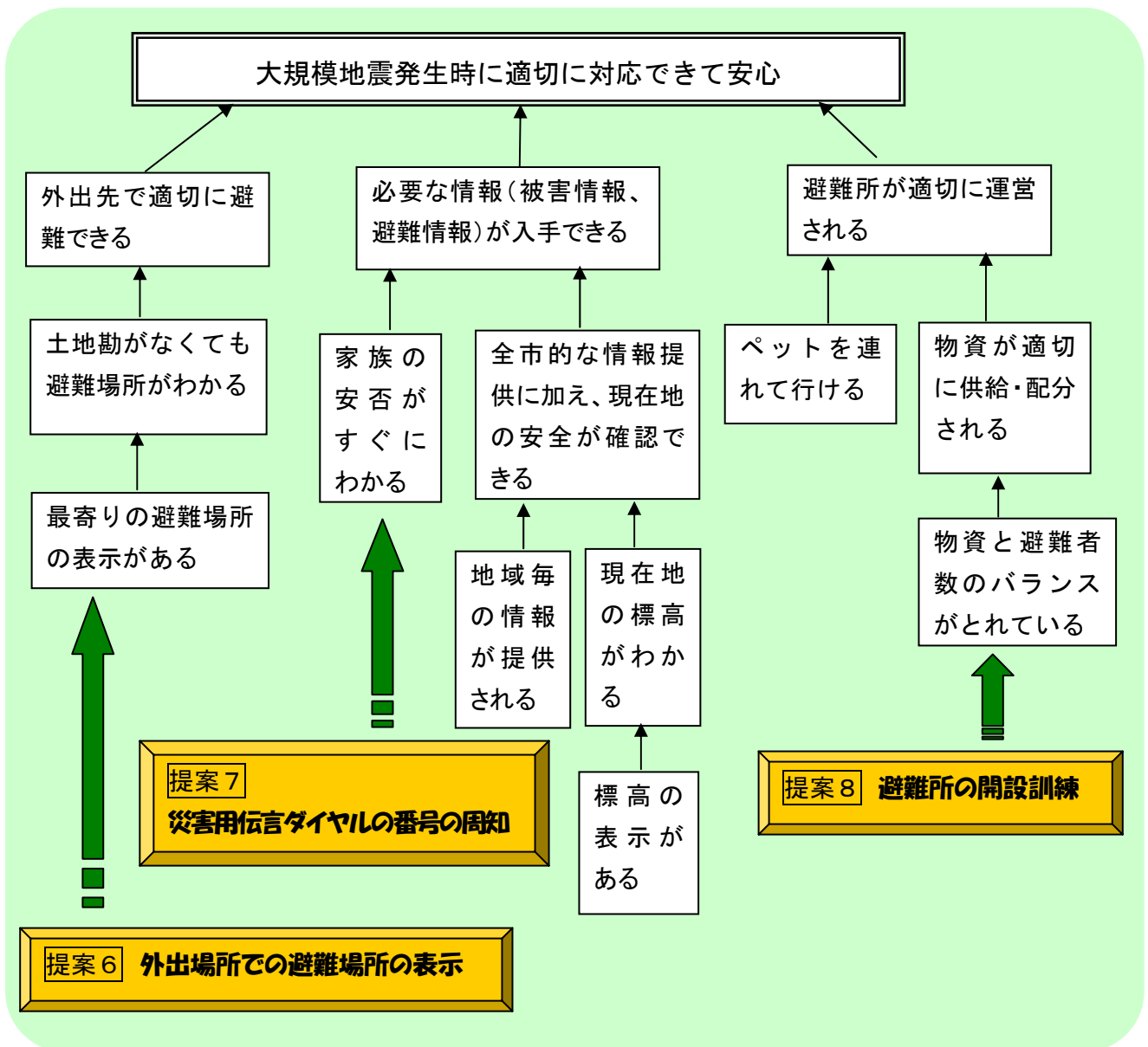
土地勘のない外出先でも、最寄りの避難場所がわかるように表示します。

提案7 災害用伝言ダイヤルの番号の周知

「171のうた」で災害用伝言ダイヤルの番号を市民全員に周知します。

提案8 避難所の開設訓練

いざという時に避難所を円滑に立ち上げ、運営できるよう訓練します。



提案6 外出場所での避難場所の表示

| | |
|----------------------|---|
| <p>目的</p> | <p>大規模地震が外出先で起きた場合には、まず、最寄りの近くのビル（デパート、企業ビル）等に飛び込み、安全を確保することが必要である。</p> <p>土地勘がないため最寄りの避難場所がわからないことも考えられることから、避難場所の表示に取り組む。</p> |
| <p>概要</p> | <p>[表示場所]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道駅 ・ バス停 ・ 主要公共施設 ・ タウンボード13ヶ所 ・ まちごとまるごとハザードマップ 等 <p>[表示内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近辺の避難場所を示した案内板を設置（表示方法を統一する。） <p>[その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大街道など人通りの多いところの避難所については電車・バス等の広告や、アナウンス（鉄道・バス等の車内アナウンス、百貨店の店内放送等）を活用して周知する。 ・ 避難時に避難場所がわからない人を見かけた場合、地域住民は声をかける。 |
| <p>役割分担 ・ 体制</p> | <pre> graph TD A[外出場所での避難場所の周知] B[案内板の設置] C[アナウンス] D[案内板の設置] E[声かけ] F[鉄道・バス会社・百貨店等] G[地域住民] H[行政] F --> B F --> C G --> D G --> E H -- 協力依頼 --> F H -- 協力依頼 --> G B --> A C --> A D --> A E --> A </pre> |

提案7 災害用伝言ダイヤルの番号の周知

| | |
|----------------------|---|
| <p>目的</p> | <p>災害用伝言ダイヤルの番号が知られていない。</p> |
| <p>概要</p> | <p>[取組]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 災害用伝言ダイヤルの番号を誰もがすぐに覚えられるように、わかりやすいメロディーで「171のうた」をつくり、鉄道・バスや百貨店等で放送する。 |
| <p>役割分担 ・ 体制</p> | <pre> graph TD A[災害用伝言ダイヤルの番号「171」を市民全員が知っている] B[鉄道・バス会社・百貨店等] C[作曲者] D[行政] B -- 車内アナウンス・店内放送 --> A C -- 「171のうた」 --> B D -- 協力依頼 --> B D -- 協力依頼 --> C </pre> |

提案8 避難所の開設訓練

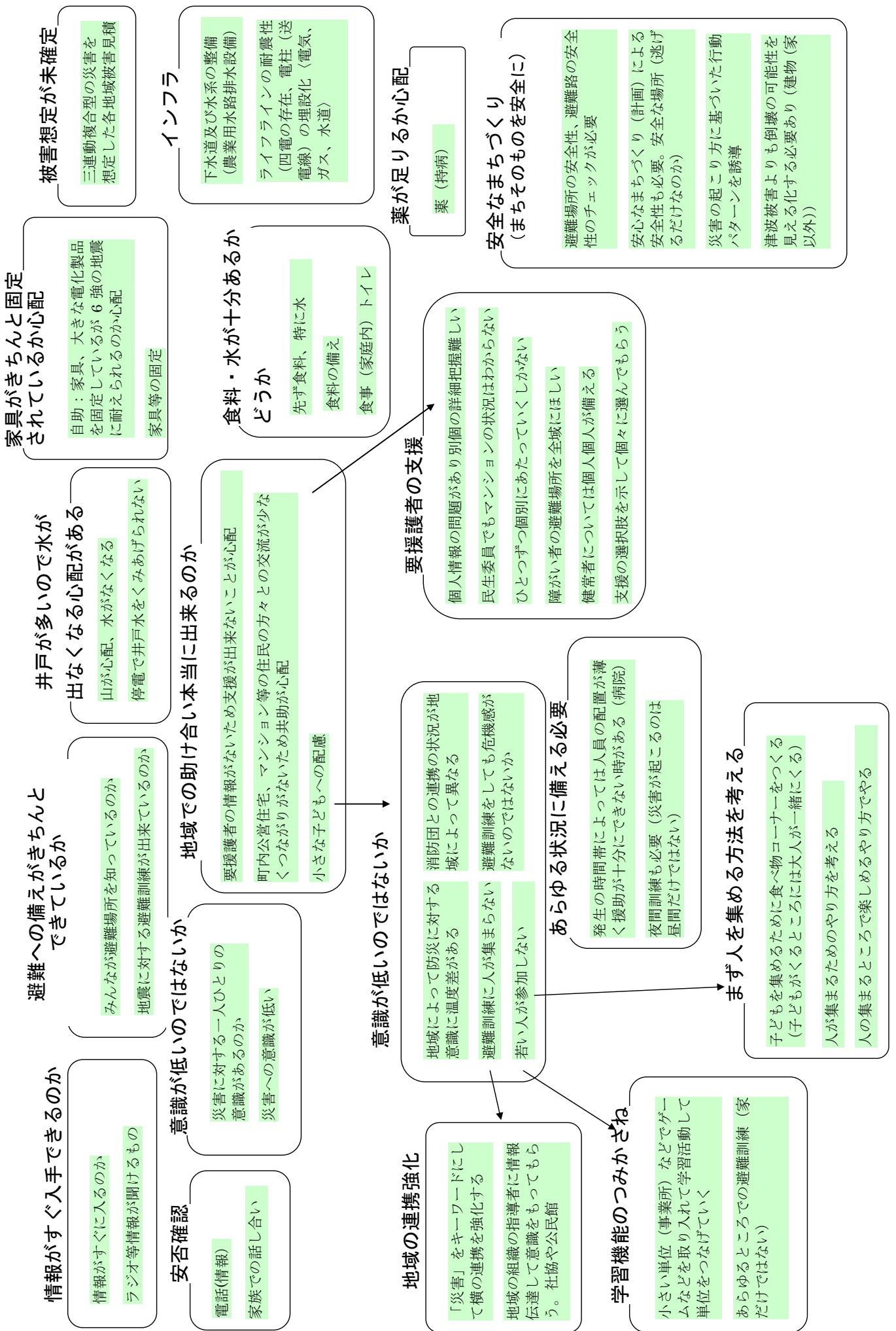
| | |
|----------------------|--|
| <p>目的</p> | <p>大規模地震の発生時には、公的な支援が来ないと想定して地域で助け合えるようにする必要がある。また、避難所を、避難や物資配分、情報提供のキーステーションとして機能させる必要がある。</p> <p>避難所を円滑に立ち上げ、適切に運営していくためには、地域で顔なじみの関係をつくるとともに、予め段取りと役割分担を決めておき、役割分担に沿った訓練を積み重ねておくことが必要である。</p> |
| <p>概要</p> | <p>[名称アイデア]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マナーを守って快適な避難場所へ <p>[予め決めておくべきこと]</p> <p>(運営体制)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所のリーダー、指揮命令系統、学校長との連携 ・ 必要な役割（リーダー、サブリーダー、情報収集、広報担当、環境班、ボランティア、医療担当、食事班 etc）と体制 <p>※予め担当を決めておく→避難所開設訓練で練習しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各避難所と災害対策本部、消防団との連絡の取り方 <p>(避難所のスペース配分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小さな子供を抱える母親への配慮 ・ プライバシーを確保するスペース <p>(備品の確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮設トイレ、携帯電話の充電器、水（飲用水、生活水） <p>(二次避難所の想定)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知的障がい者、車いすの障がい者の二次避難所の想定・確保 <p>(トラブル対応の仕組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民の要求がいろいろ出ると思われるのでそれにどう答えるか。 ・ 被災者がストレスを抱えないよう相談スペースを作ってそこで問題に対応していく。（避難所運営の基本的なルールを予め決めておく。） |
| <p>役割分担 ・ 体制</p> | |

参考資料

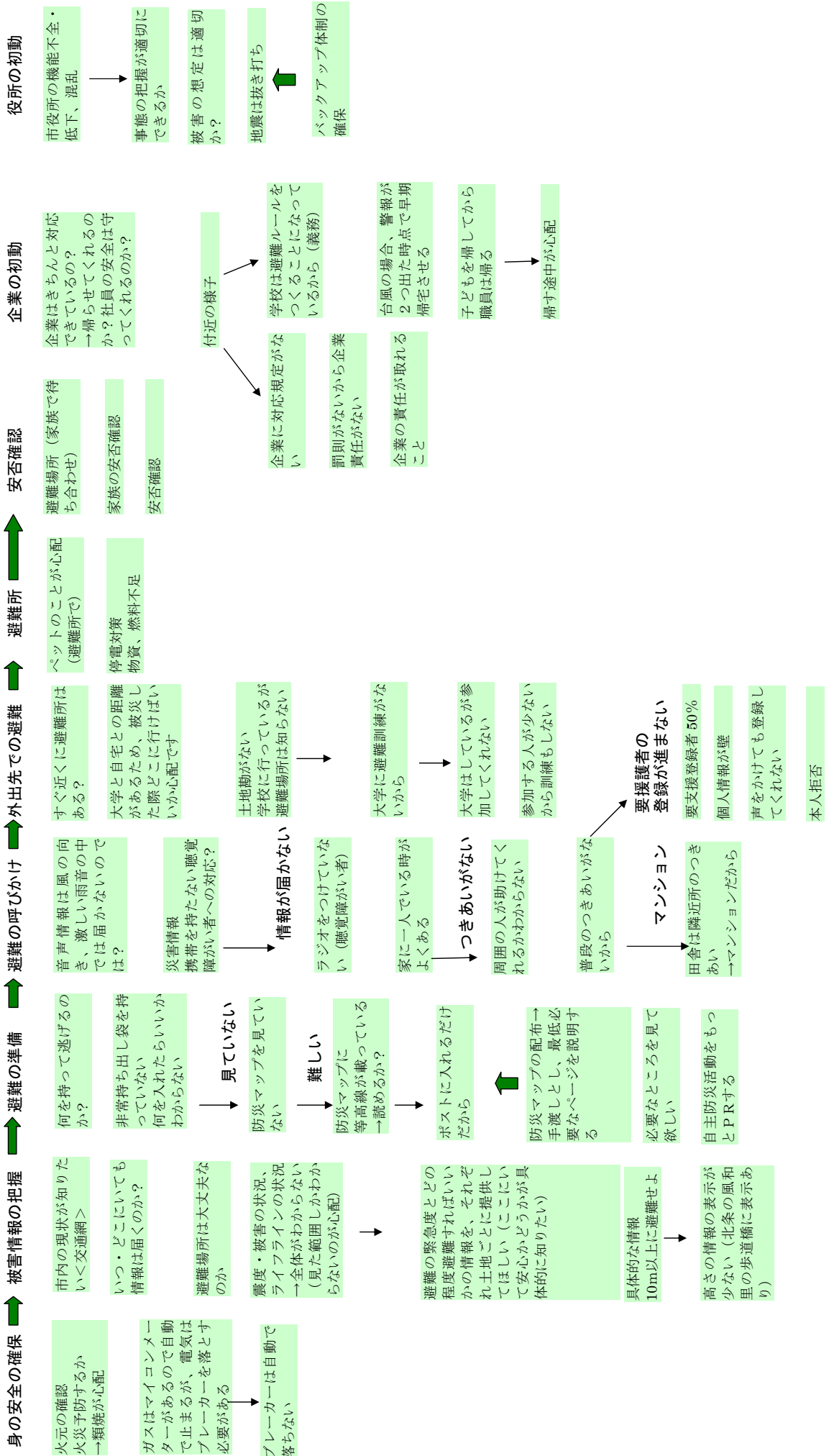
■第1回意見交換会のまとめ

■参加者名簿

■市民意見交換会(ラウンドテーブル):災害に強いまちづくり① A:大規模地震に備えた事前準備



■市民意見交換会(ラウンドテーブル):災害に強いまちづくり① B:大規模地震発生時の対応



■市民意見交換会(ラウンドテーブル):災害に強いまちづくり① C:東日本大震災から学んだこと

交通 情報 コミュニティ 行政 津波 学校 意識

| | | | | | | |
|--|--|---|---|--|--|--|
| <p>救援物資が届かない(備蓄が足りない)</p> <p>情報が混雑して、避難に車が使えない</p> <p>放送ほか指示が届かない、逃げ遅れ</p> | <p>情報が通じなかつた(衛星携帯>メール>公衆電話>携帯(タイムラグ))</p> <p>防災(緊急時の指令の出し方に甘さがある)</p> <p>安否の確認をどうするか?</p> <p>防災マップを近所の人に知ってもらおう</p> | <p>地域コミュニティの強さと、それをも崩すハザード</p> <p>コミュニティにおける助け合いの精神(共助)</p> <p>町内会が共助を担う</p> <p>普段からコミュニケーションを取る</p> <p>防災訓練(パケツリレー)を通じてコミュニケーション</p> | <p>政府の対応が遅い</p> <p>災害時のデータ(津波の高さなど)を行政が開示</p> <p>過去の震災の情報を整理</p> <p>避難所が人口に比べて少ない</p> | <p>津波の怖さ</p> <p>現在の津波の想定は正しいか?</p> <p>津波の心配は少ない →それよりも土砂災害などに備える</p> | <p>小中学校の防災教育はできているのか</p> <p>大学でも防災意識を高める取り組みをする</p> <p>小学校を災害時の拠点に</p> <p>避難所の開設訓練</p> <p>幼稚園で防災の紙芝居</p> | <p>地域の住民の意識(地震、津波に対する)が低い</p> <p>松山市の各市民一人ひとりの防災意識(市民意識)の低さ</p> <p>危険区域を意識してもらう</p> <p>年2回町内会で防災訓練(第一避難所への避難)</p> <p>3月以降、意識が変わった(沿岸部は特に)</p> <p>自助の精神</p> <p>自分たちで防災マップをつくる</p> <p>避難訓練を実施するしかない</p> <p>避難所に行ってみる</p> <p>地震が起きる時間帯がわからない(昼間のことだけでなく、夜の時も想定)</p> <p>想定外にも対応できるように</p> <p>震災前の準備が重要</p> |
|--|--|---|---|--|--|--|

要援護者支援

障がい者が入りにくい

移動困難者のサポート(高齢者も含む)

要援護者への事前サポート

自宅住まいの障がい者が逃げられない(聴こえない人もいる)

- : 学んだこと
- : 不安に感じたこと
- : 今後の取り組み等

■市民意見交換会（ラウンドテーブル）：災害に強いまちづくり 参加者名簿

（敬称略，50音順）

| No. | 氏名 | 所属・役職等 |
|-----|--------|------------------------|
| 1 | 青野 光男 | 松山市消防団 副団長 |
| 2 | 井戸 善昭 | 松山市消防団 副団長 |
| 3 | 岩崎 沙耶 | 公 募 |
| 4 | 梅山 勝彦 | 松山市社会福祉協議会総務課 副主幹 |
| 5 | 岡部 國男 | 松山市障害者団体連絡協議会 副会長 |
| 6 | 加藤 優子 | 公 募 |
| 7 | 西藤 健次 | 自主防災組織ネットワーク会議 副会長 |
| 8 | 関上 君夫 | 松山市防火連絡協議会 常任理事 |
| 9 | 竹田 喜久恵 | 松山赤十字病院 看護副部長 |
| 10 | 谷口 ノブ子 | 女性防火クラブ連合会 会長 |
| 11 | 玉井 治 | 公 募 |
| 12 | 俊成 信代 | 愛媛県立中央病院 看護副部長 |
| 13 | 長井 良嗣 | 松山市防火連絡協議会 副会長 |
| 14 | 花田 町子 | 公 募 |
| 15 | 松木 ヒサコ | 公 募 |
| 16 | 松本 美紀 | 愛媛大学防災情報研究センター 准教授 |
| 17 | 油野 秀樹 | 公 募 |
| 18 | 吉金 茂 | 自主防災組織ネットワーク会議 会長 |
| 19 | 吉田 由香里 | 松山市身体障害者福祉センター 手話生活相談員 |

■市民意見交換会（ラウンドテーブル） 報告書

～第6次松山市総合計画の策定に向けて～

作成：松山市総合政策部企画政策課

〒790-8571 愛媛県松山市二番町四丁目7-2

電話 (089) 948-6341・6943 FAX (089) 934-1804

電子メール sougoukeikaku@city.matsuyama.ehime.jp